

## 府中市子ども・子育て支援に関する 市民意向調査結果速報値の分析

### 目 次

1	就学前児童調査結果の分析	… 1 頁
2	小学生調査結果の分析	… 16 頁
3	中学生・高校生世代調査結果の分析	… 23 頁
4	ひとり親家庭調査結果の分析	… 31 頁
5	就学前児童調査・小学生調査・ひとり親家庭調査の 比較分析	… 35 頁

※前回調査…平成 20 年 10 月～11 月に実施した市民意向調査結果

# 1 就学前児童調査結果の分析

## (1) 定期的な教育・保育事業について

保護者の就労状況にかかわらず、就学前の子どもに必要とされる教育と保育を提供できる体制をどのように整備していくかが問われている。

### ○ 定期的な教育・保育事業の現在の利用状況について（問 29・問 30）

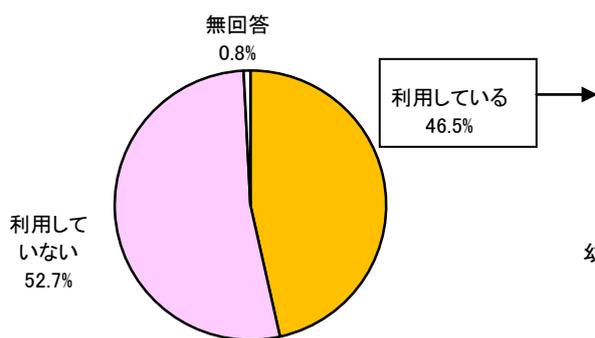
現在、定期的な教育・保育事業を「利用している」と回答した人は、0～2歳児が46.5%、3～5歳児は97.4%となっている。利用している割合が高い事業は、0～2歳児では「認可保育所」が一番高く54.8%、3～5歳児は「幼稚園」が一番高く62.4%、次いで「認可保育所」が高く32.4%となっている。

【問 29 現在定期的な教育・保育事業を利用しているか／子どもの年齢区分別】

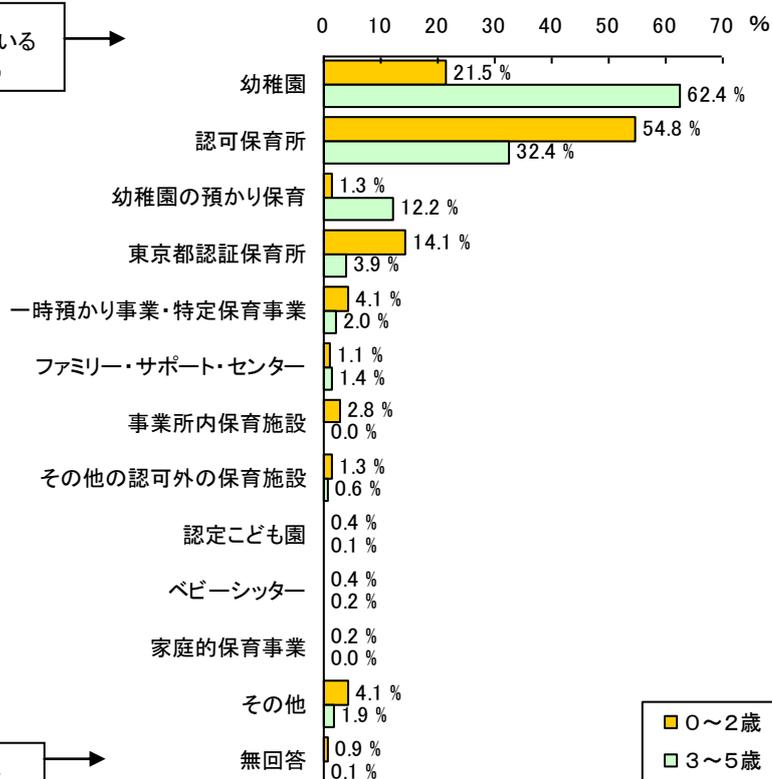
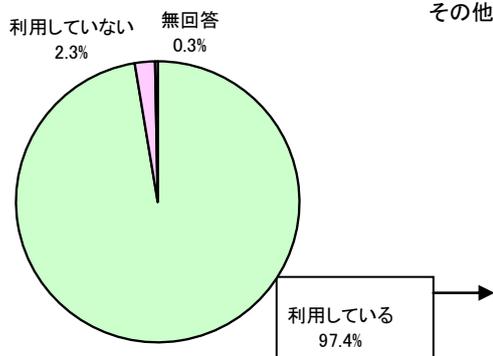
【問 30 利用している定期的な教育・保育事業／子どもの年齢区分別】

※問 29 で「利用している」と回答した人への設問

(0～2歳児)



(3～5歳児)



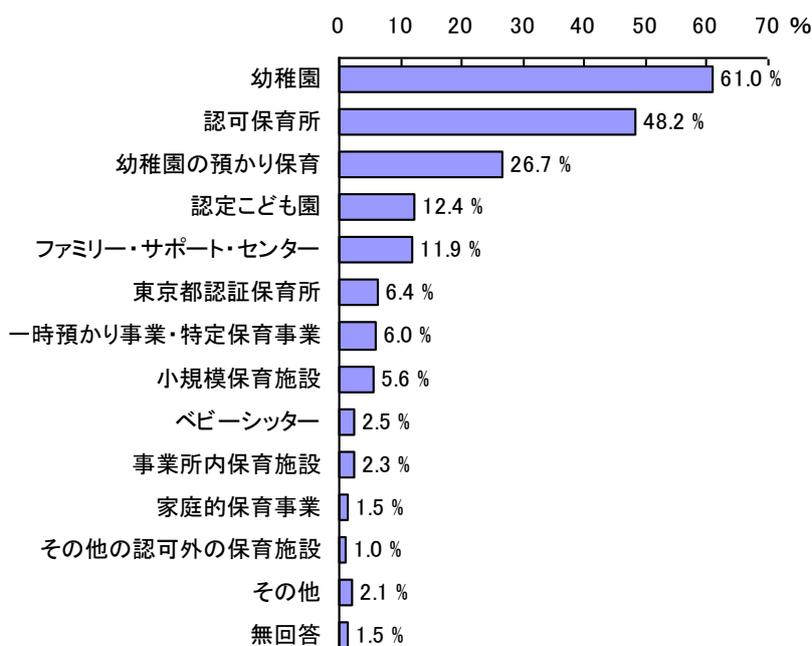
○ 定期的な教育・保育事業の利用希望について（問 36）

子どもが小学校入学するまでの間に利用したい教育・保育事業として、一番割合が高いのが「幼稚園」で61.0%、次いで「認可保育所」で48.2%となっている。

なお、「認定こども園」の利用希望は12.4%で、「幼稚園」「認可保育所」と比べて低くなっているが、これは、府中市内に認定こども園が無いことも影響していると考えられる。

【問 36 小学校入学までの間に定期的にご利用したい教育・保育事業（現在の利用の有無にかかわらず）】

（全 体）



（現在の子どもの年齢別）

	（合計）		0歳児		1歳児		2歳児		3歳児		4歳児		5歳児	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
幼稚園	1169	61.0	200	56.3	206	64.8	168	53.0	191	61.4	211	67.6	178	63.3
幼稚園の預かり保育	512	26.7	68	19.2	76	23.9	77	24.3	99	31.8	99	31.7	88	31.3
認可保育所	924	48.2	231	65.1	160	50.3	167	52.7	129	41.5	116	37.2	112	39.9
認定こども園	237	12.4	68	19.2	43	13.5	34	10.7	33	10.6	29	9.3	29	10.3
小規模保育施設	107	5.6	38	10.7	21	6.6	17	5.4	9	2.9	7	2.2	14	5.0
家庭的保育事業	28	1.5	11	3.1	6	1.9	2	0.6	2	0.6	5	1.6	1	0.4
事業所内保育施設	44	2.3	16	4.5	10	3.1	4	1.3	4	1.3	5	1.6	5	1.8
東京都認証保育所	123	6.4	52	14.6	22	6.9	16	5.0	10	3.2	9	2.9	13	4.6
その他の認可外の保育施設	19	1.0	12	3.4	3	0.9	2	0.6	0	0.0	2	0.6	0	0.0
一時預かり事業・特定保育事業	115	6.0	35	9.9	19	6.0	17	5.4	17	5.5	13	4.2	13	4.6
ベビーシッター	47	2.5	7	2.0	3	0.9	10	3.2	11	3.5	9	2.9	6	2.1
ファミリー・サポート・センター	228	11.9	51	14.4	42	13.2	34	10.7	35	11.3	37	11.9	29	10.3
その他	40	2.1	3	0.8	3	0.9	9	2.8	6	1.9	8	2.6	10	3.6
無回答	28	1.5	1	0.3	3	0.9	4	1.3	6	1.9	8	2.6	6	2.1
（全体）	1917	100.0	355	100.0	318	100.0	317	100.0	311	100.0	312	100.0	281	100.0

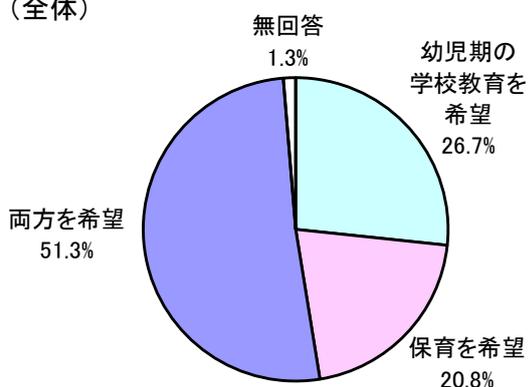
○ 3歳以上児が教育・保育事業を利用する際に希望する教育・保育の内容（問37）

3歳以上児が教育・保育事業を利用する際にどのような内容の教育・保育を希望するかについては、「幼児期の学校教育を希望する」が26.7%、「保育を希望する」が20.8%、「幼児期の学校教育・保育の両方を希望する」が51.3%で、就学前に学校教育と保育を受けたいと希望する人の割合は2人に1人と高くなっている。

今後、幼保一体化を実現し、すべての子育て家庭に就学前の教育・保育を提供する体制づくりを進めていくうえでは、これまで幼稚園や認可保育所が担ってきた役割を十分に踏まえながら、その教育・保育の質をより高めていくとともに、認定こども園による教育・保育の確保を検討していく必要がある。

【問37 3歳以上児の子どもが定期的な教育・保育事業を利用する際に希望する教育・保育の内容】

(全体)



(子どもの年齢区分及び現在定期的にご利用している教育・保育事業でのクロス集計)

	全体	るを学幼	望保	望両と学	無回答	
		希校児	す育	す方保校		
		望教期	るを希	るを育教		
		す育の	るを希	るを育教		
合計	人	1917	511	398	984	24
	%	100	26.7	20.8	51.3	1.3

現在定期的にご利用している教育・保育事業別内訳（年齢2区分）

年齢区分	事業別	人	全体	るを学幼	望保	望両と学	無回答
				希校児	す育	す方保校	
		望教期	す育の	るを希	るを育教		
		す育の	るを希	るを育教			
0～2歳児	合計	846	100	213	180	441	12
		%	100	25.2	21.3	52.1	1.4
	認可保育所	203	100	15	64	122	2
		%	100	7.4	31.5	60.1	1.0
	認証保育所・家庭的保育事業	51	100	7	13	30	1
	%	100	13.7	25.5	58.8	2.0	
在宅その他	592	100	191	103	289	9	
	%	100	32.3	17.4	48.8	1.5	
3～5歳児	合計	1047	100	290	213	532	12
		%	100	27.7	20.3	50.8	1.1
	幼稚園	545	100	221	66	255	3
		%	100	40.6	12.1	46.8	0.6
	認可保育所	325	100	24	114	182	5
	%	100	7.4	35.1	56.0	1.5	
認証保育所・家庭的保育事業	46	100	10	11	25	0	
	%	100	21.7	23.9	54.3	0.0	
在宅その他	131	100	35	22	70	4	
	%	100	26.7	16.8	53.4	3.1	
年齢不詳	人	24	100	8	5	11	0
	%	100	33.3	20.8	45.8	0.0	

## (2) 周囲の支援の状況・子育ての仲間づくりについて

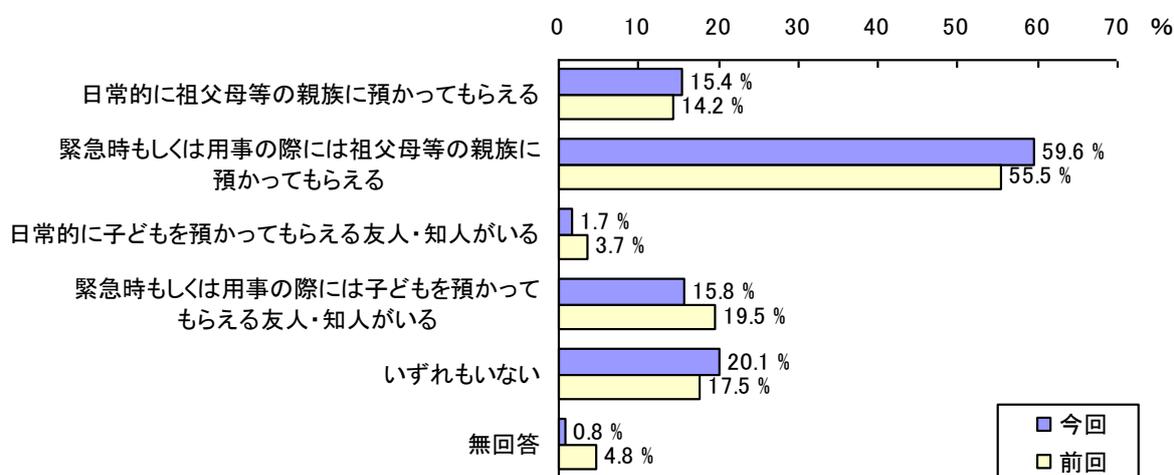
子育て中の親子が地域にとけ込むことのできる工夫が必要であり、親同士の仲間づくりや子育て情報の共有を可能とする場の充実が求められている。

### ○ 子どもを預かってもらえる親族・知人（問12）

「祖父母等の親族に預かってもらえる」は今回調査が前回調査を上回る。一方で、「子どもを預かってもらえる友人・知人がいる」は、今回調査が前回調査をやや下回る。また、「(親族及び友人・知人) いずれもない」は今回調査が前回調査を上回る。

このように、子どもを預けられる友人・知人が少なくなり、親族に頼ることが多くなっている傾向が見受けられる。

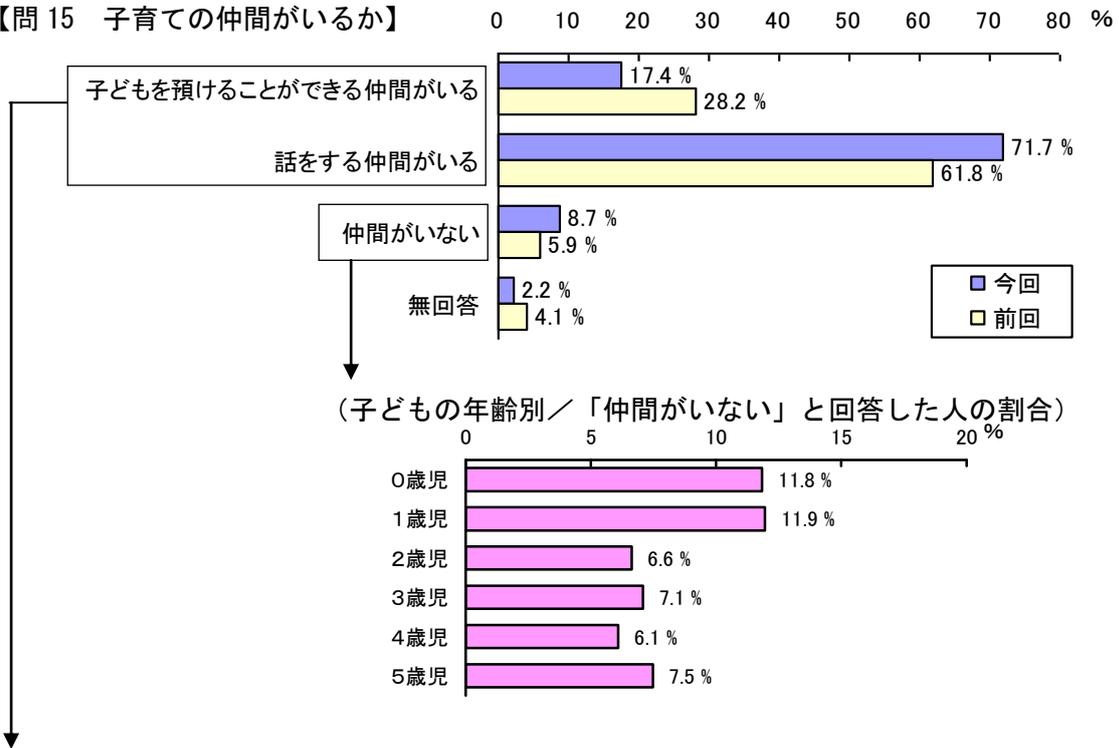
#### 【問12 子どもを預かってもらえる親族・知人がいるか】



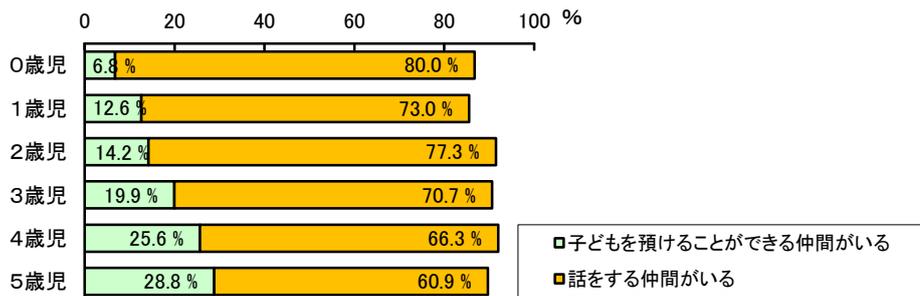
○ 子育ての仲間がいるか（問 15）、どこで知り合ったか（問 16）

子育ての仲間がいるかを聞いた設問では「子どもを預けることができる仲間がいる」と回答した人は今回調査では、前回調査を約 10 ポイント下回る。また、0～1 歳児の保護者の 1 割以上が「仲間がいない」と回答している。仲間とどこで知り合ったかについては、「幼稚園・保育所・学校などの子どもが通う施設」が 58.1%と大半であり、子どもが施設に通っていない親は仲間づくりが難しいことがわかる。

【問 15 子育ての仲間がいるか】

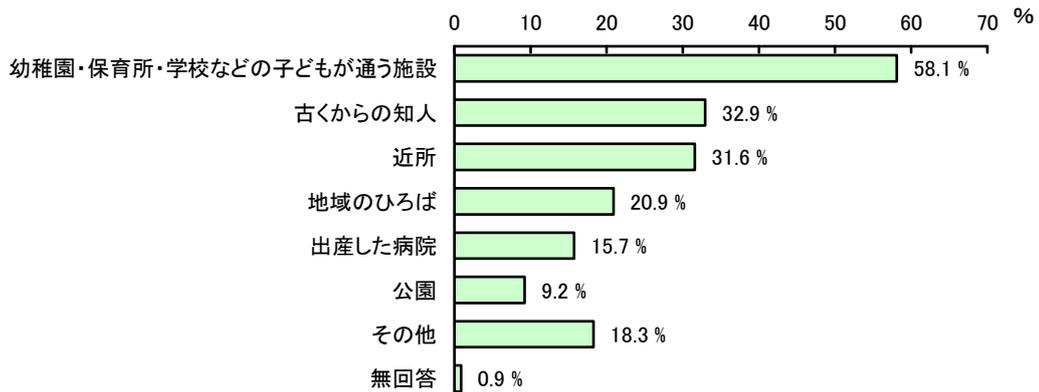


(子どもの年齢別／「子どもを預けることができる・話をする仲間がいる」と回答した人の割合)



【問 16 仲間とどこで知り合ったか】

※問 15 で「子どもを預けることができる・話しをする仲間がいる」と回答した人への設問

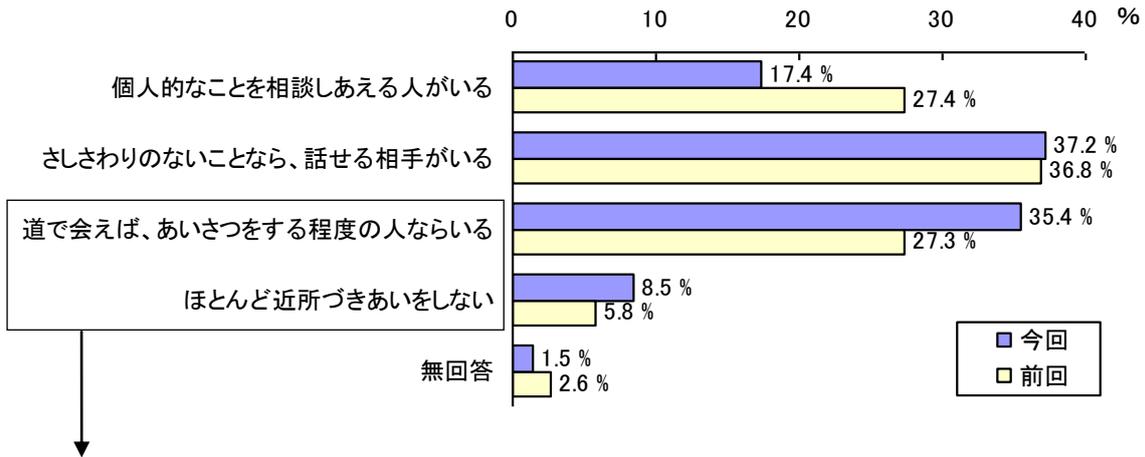


○ 近所づきあいについて（問 84、問 85）

近所づきあいについては、「個人的なことを相談しあえる人がいる」が前回調査を 10 ポイント下回っており、付き合いの仕方は浅くなっていることがわかる。

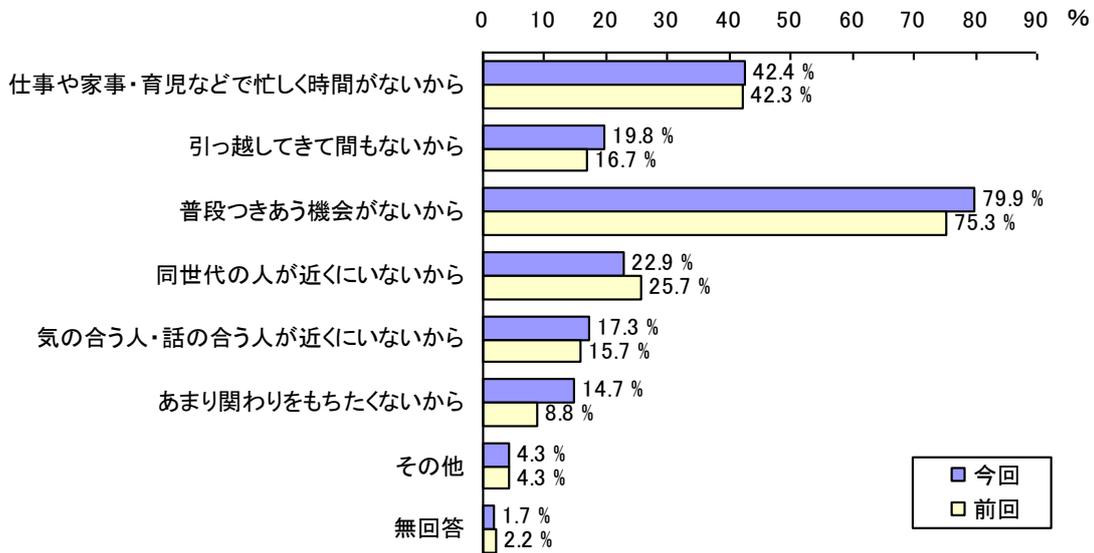
近所づきあいをしない理由としては、「普段つきあう機会がないから」「仕事や家事・育児などで忙しく時間がないから」が多くあげられている。また、前回調査との比較では、「あまり関わりを持ちたくないから」が前回調査を 5.9 ポイント上回っており、次いで「普段つきあう機会がないから」が前回調査を 4.6 ポイント上回っている。

【問 84 どの程度の近所づきあいをしているか】



【問 85 近所づきあいをしない理由】

※問 84 で「あいさつする程度の人ならいる」「ほとんど近所づきあいが無い」と回答した人への設問



### (3) 子育てで日ごろ悩んでいること

乳幼児期は子どもの疾病や発達の遅れなどの早期発見のためにも重要な時期であり、保護者がそれぞれの悩みに応じて相談できる場所の提供と周知を充実させるとともに、その後の適切な支援につなげることができる体制づくりが必要である。

#### ○ 子育てで日ごろ悩んでいること・気になること（問 21）

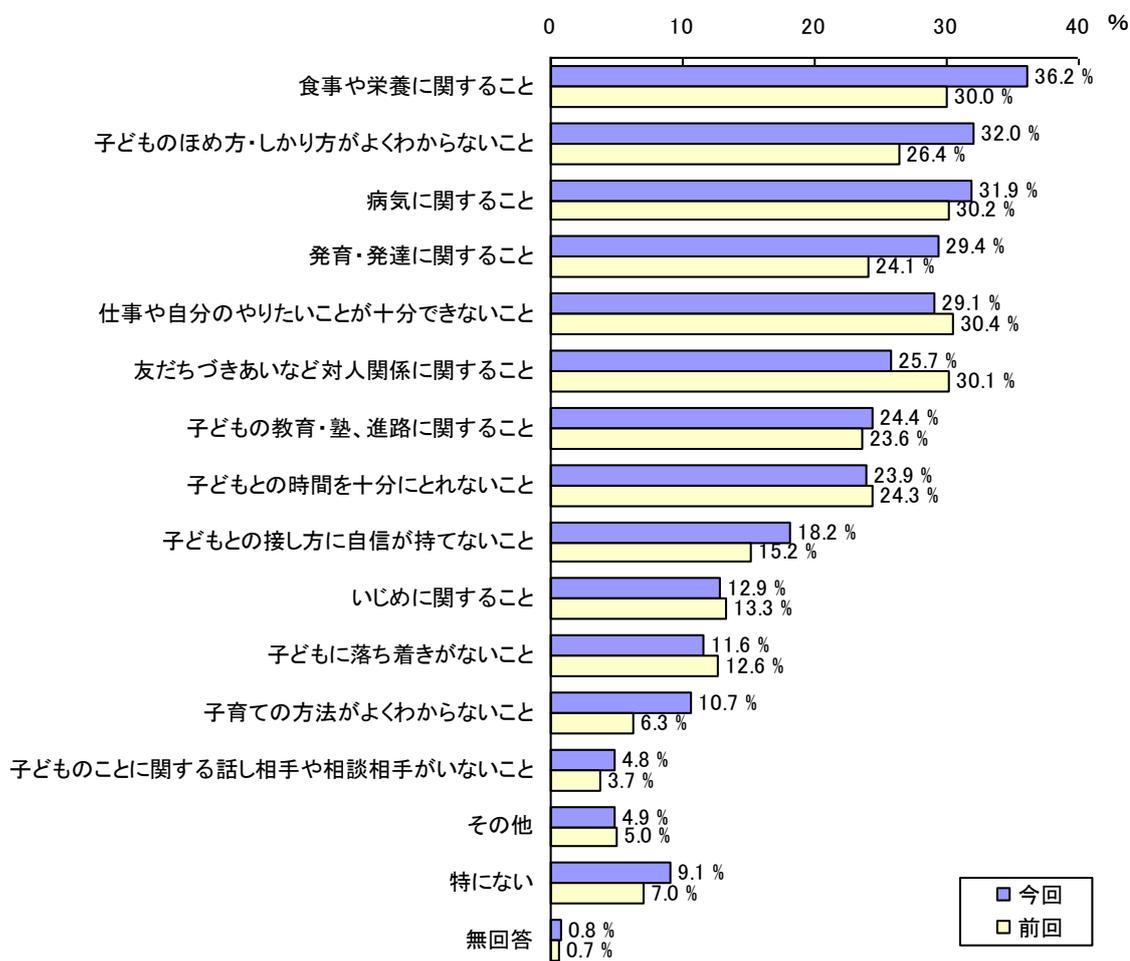
日ごろ悩んでいること・気になることについては、「食事や栄養に関すること」「子どものほめ方・しかり方がよくわからないこと」「病気に関すること」「発育・発達に関すること」の割合が高くなっており、前回調査との比較でも、これらの事項で増が目立っている。

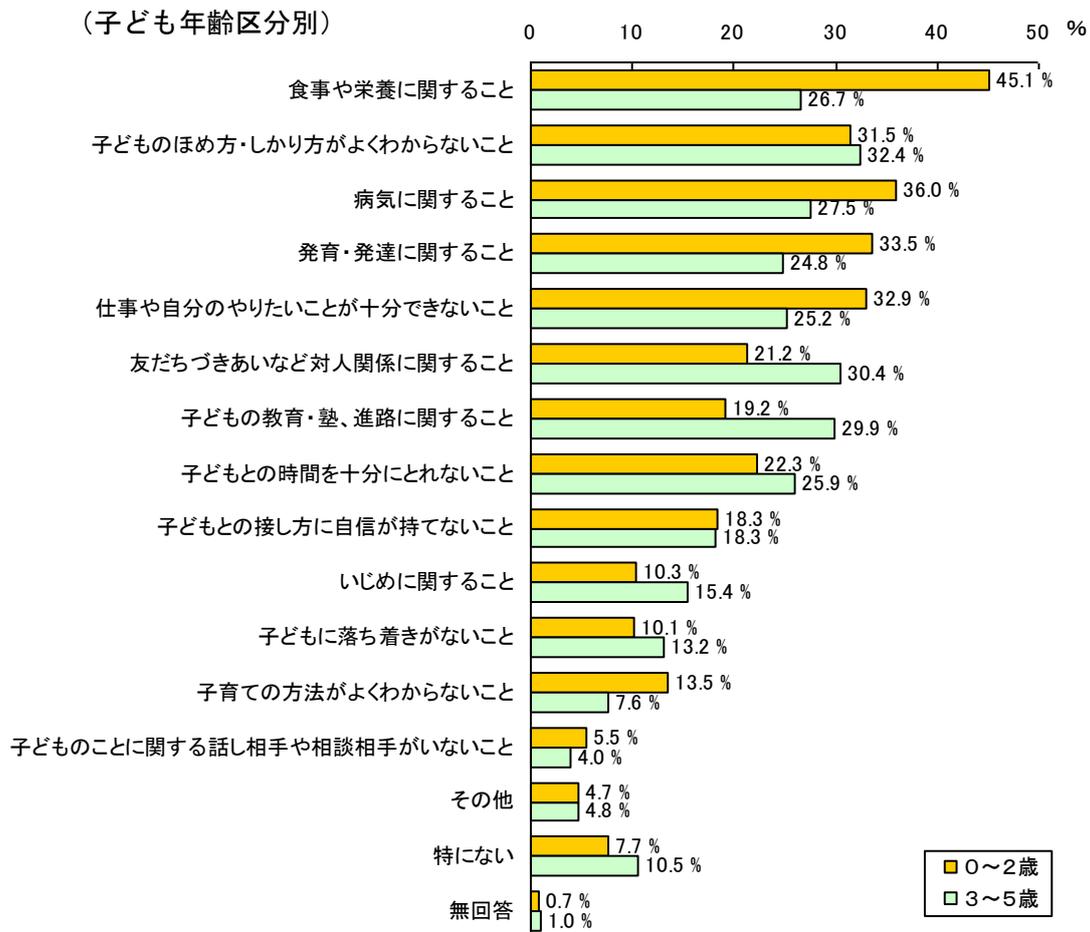
また、年齢区分別にみると、0～2歳児では「食事や栄養に関すること」「病気に関すること」「発育・発達に関すること」の割合が高く、3～5歳児では「子どものほめ方・しかり方がよくわからないこと」「友だちづきあいなど対人関係に関すること」が高くなっており、子どもの年齢により悩みの傾向に違いがみられる。

保護者が悩みを相談できる場所の提供・周知を充実させるとともに、その後の適切な支援につなげることができる体制づくりが必要である。

#### 【問 21 子育てで日ごろ悩んでいること・気になること】

(全 体)





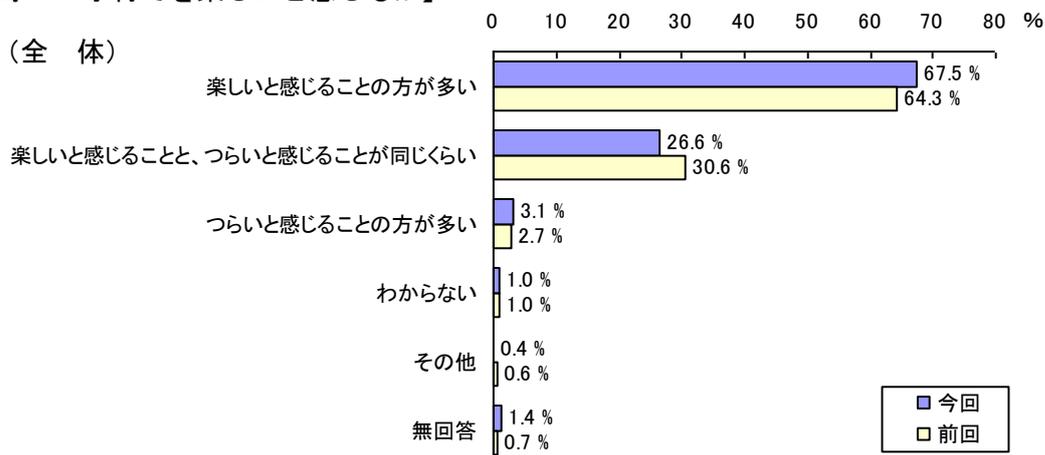
#### (4) 子育てにおいて必要な支援・対策

子育て不安の解消のために有効な支援・対策としては、「保育事業の充実」「地域における子育て支援の充実」の割合が高くなっている。これらは、新たに策定する事業計画においても必須記載事項となっている内容であり、重点的に取り組んでいく必要がある。

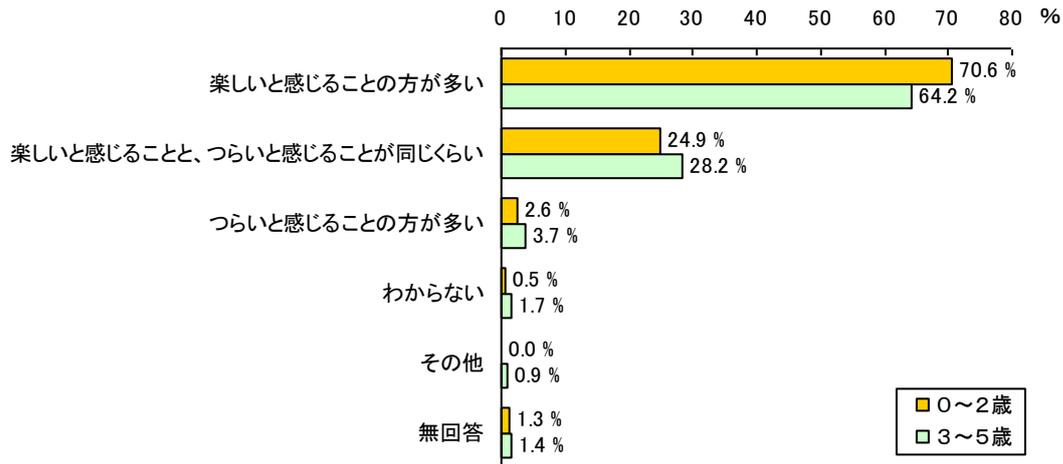
#### ○ 子育てを楽しんでいるか (問17)

子育てを楽しんでいると感じる保護者の割合は、前回調査と比較して増加している。

#### 【問17 子育てを楽しんでいるか】



(子どもの年齢区分別)



○ 子育てにおいて有効だと思う支援・対策について (問 18、問 19)

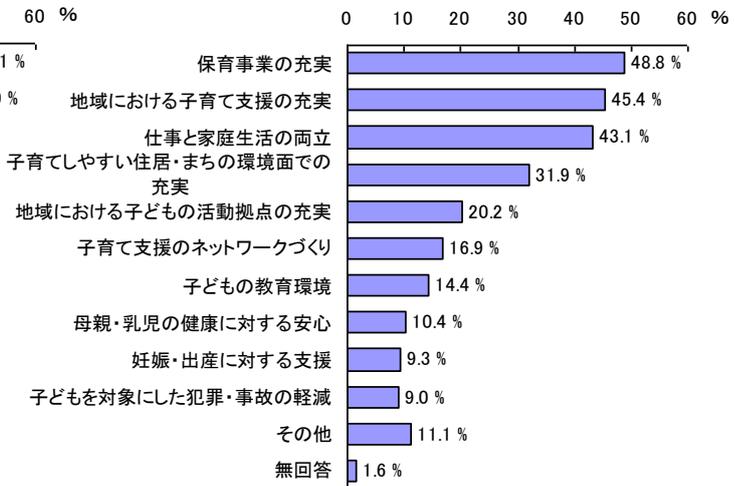
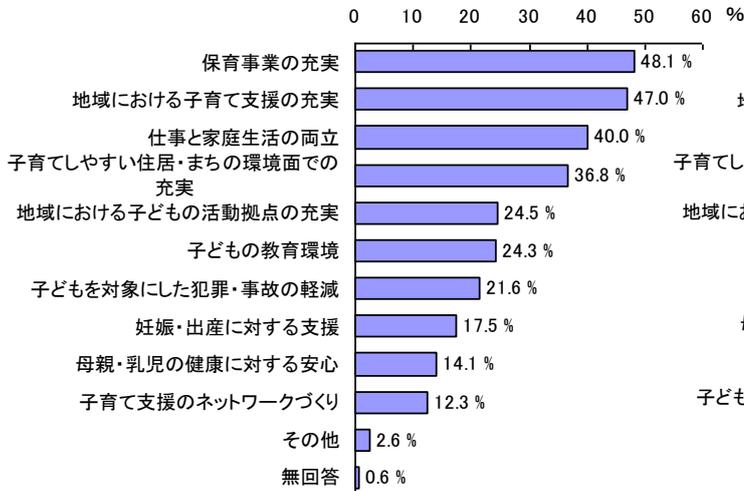
子育てにおいてどのような支援・対策が有効かについては、子育てを楽しいと感じるか否かにかかわらず、「保育事業の充実」「地域における子育て支援の充実」「仕事と家庭生活の両立」が共通して上位となっている。

【問 18 子育てに有効な支援はなにか】

※問 17 で「楽しいと感じることのほうが多い」と回答した人への設問

【問 19 子育てのつらさを解消するために必要なことはなにか】

※問 17 で「楽しいと感じること、つらいと感じることが同じくらい」「つらいと感じることの方が多い」と回答した人への設問



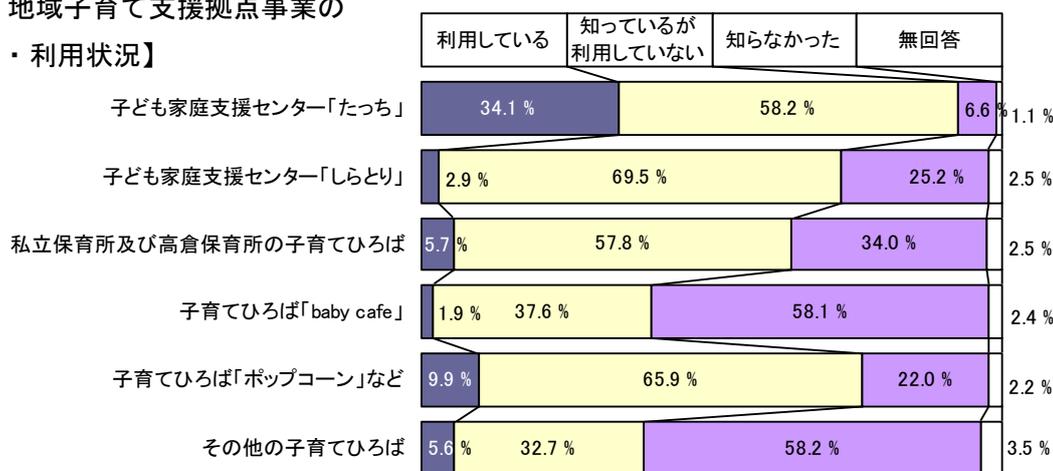
## (5) 地域の子育て支援事業について

現在の地域の子育て支援事業は、それぞれの施設がもつ機能や所在地などにより、認知度や利用状況にばらつきがみられる。今後は、各施設の地域における特性などを活かしながら、すべての子育て家庭に対する支援ができるよう、その機能を再構築し、拡充していく必要がある。

### ○ 地域子育て支援拠点事業（子育てひろば事業）の認知度・利用状況（問 44）

子育てひろば事業については、「子ども家庭支援センター「たち」」の認知度、利用状況ともに高くなっている。一方で、「子育てひろば「baby cafe」」を知らない人が6割近いなど、地域子育て支援拠点事業の認知度・利用状況にばらつきがみられる。

#### 【問 44 地域子育て支援拠点事業の認知度・利用状況】

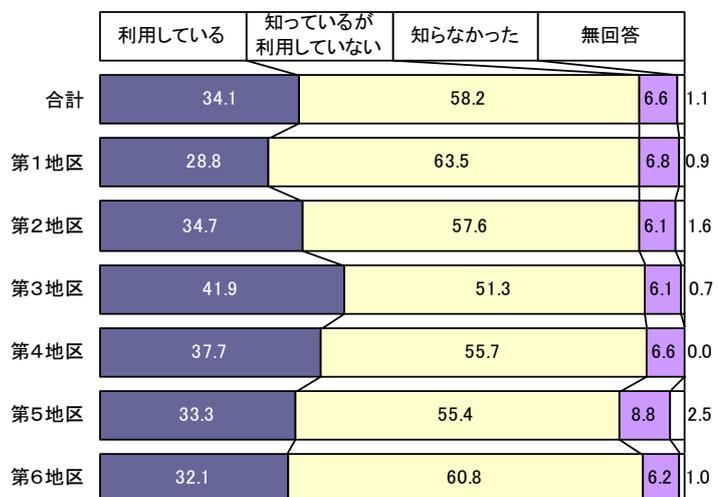


### ○ 子ども家庭支援センター「たち」と「しらとり」の地区ごとの認知度・利用状況の比較（問 44）

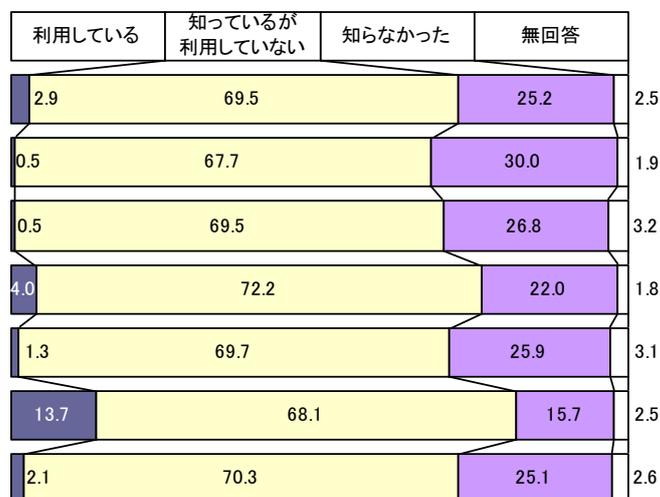
全体的に認知度はどちらも高く、利用状況は「しらとり」が低くなっているが、武蔵台を含む第5地区での利用状況は他の地区と比較して高く、地域の中では一定の役割を果たしていることがわかる。

#### 【問 44 と居住地区とのクロス集計】

子ども家庭支援センター「たち」（府中駅前くるるビル）



子ども家庭支援センター「しらとり」（武蔵台）



第1地区: 多磨町、朝日町、紅葉丘、白糸台(1~3丁目)、若松町、浅間町、緑町

第2地区: 白糸台(4~6丁目)、押立町、小柳町、八幡町、清水が丘、是政

第3地区: 天神町、幸町、府中町、寿町、晴見町、栄町、新町

第4地区: 宮町、日吉町、矢崎町、南町、本町、片町、宮西町

第5地区: 日鋼町、武蔵台、北山町、西原町、美好町(1~2丁目)、本宿町(3~4丁目)、西府町(3~4丁目)、東芝町

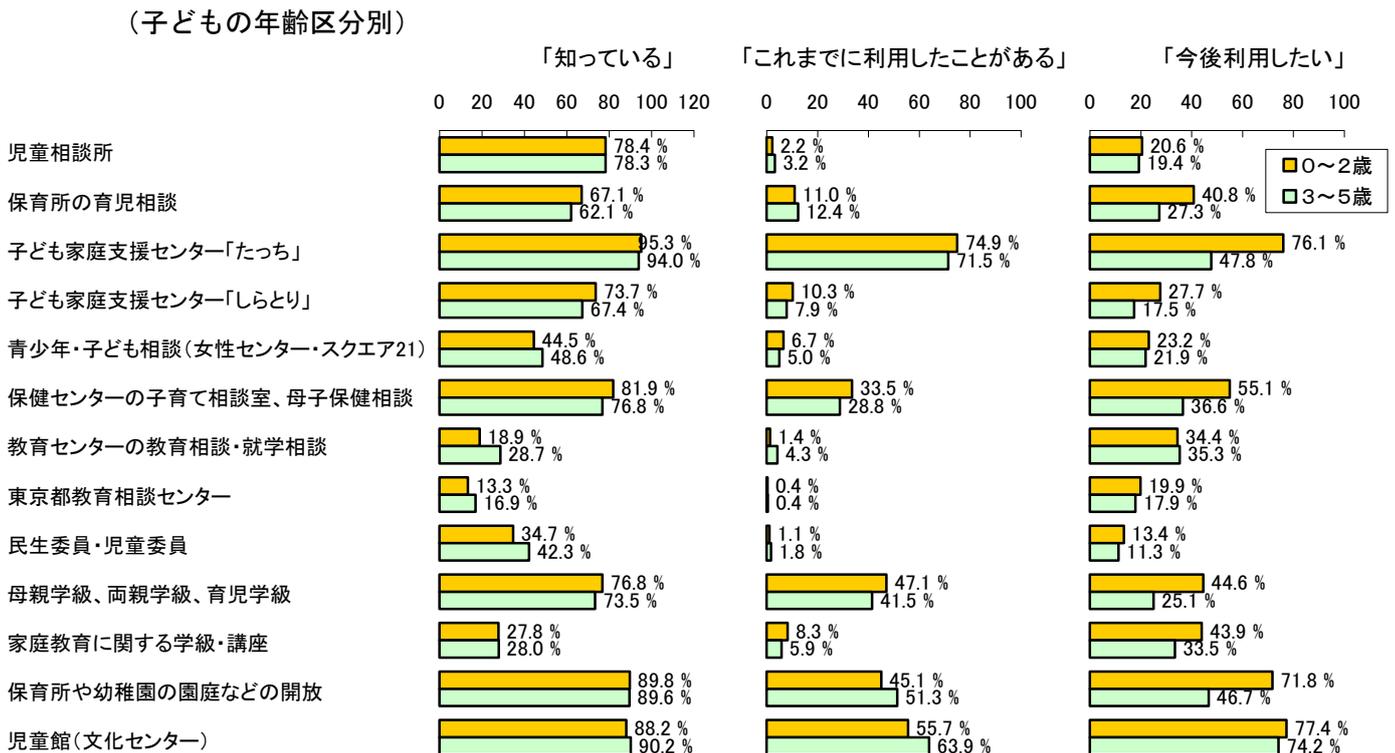
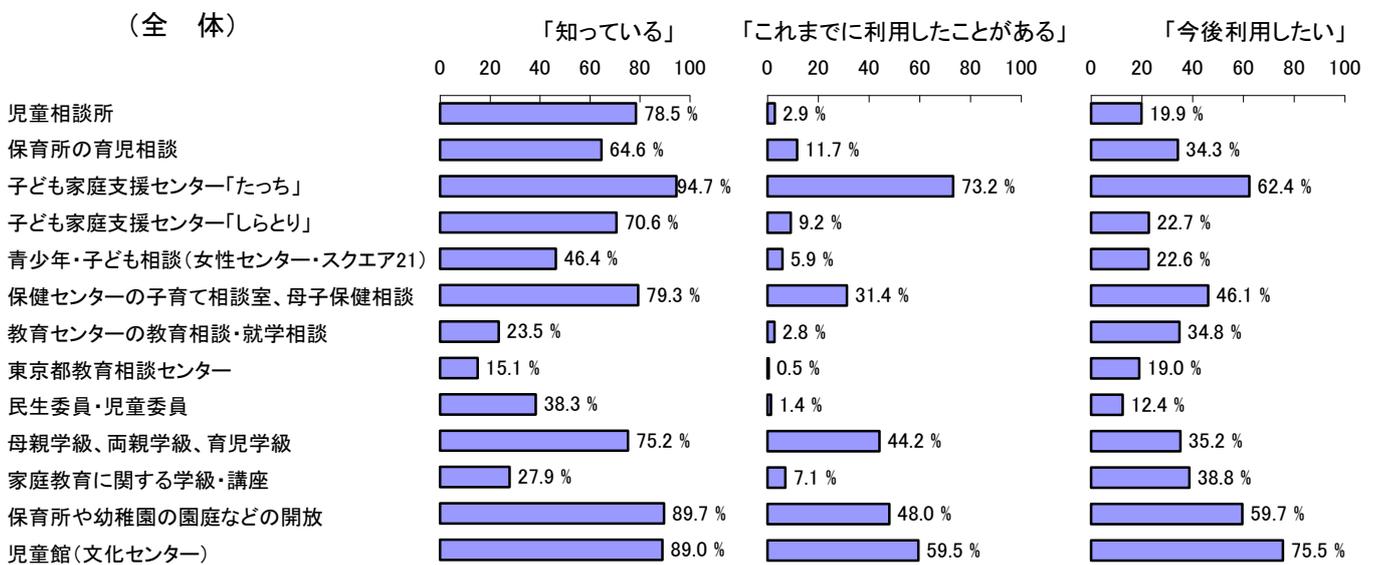
第6地区: 美好町(3丁目)、分梅町、住吉町、四谷、日新町、本宿町(1~2丁目)、西府町(1~2、5丁目)

○ 地域における子育て支援事業（相談できる場所・情報提供の場所など）の利用意向（問 47）

これまでの利用状況をみると、「子ども家庭支援センター「たち」」を利用したことがある人が7割を超え、一番多くなっている。次いで「児童館（文化センター）」、「保育所や幼稚園の園庭解放」が多くなっている。

今後の利用意向についても同様に、ひろば事業や相談事業などを総合的に実施している子ども家庭支援センター「たち」と、身近な場所で利用できる児童館や保育所・幼稚園の利用意向が高い。児童相談所のような専門機関よりも、こうした身近な施設を利用したいという意向が強いことがわかる。新制度において地域子ども・子育て支援事業に位置づけられた利用者支援を実施する際などに参考にしていく必要がある。

【問 47 子育て支援事業の認知度・利用状況・利用意向】



＜参考＞ 府中市の「今後の保育行政のあり方に関する基本方針（案）」における方向性

保育行政上の基礎的エリア区分ごとに、市立保育所1箇所を「基幹保育所」として位置づけ、子育て支援機能の強化を図ることとしています。また、地域資源が一体となって効果的な支援を行うためのネットワークの構築を順次すすめ、地域の全ての子育て家庭に対する支援体制の強化を図ることとし、「基幹保育所」がこのネットワーク構築の取り組みを進めるともなっています。

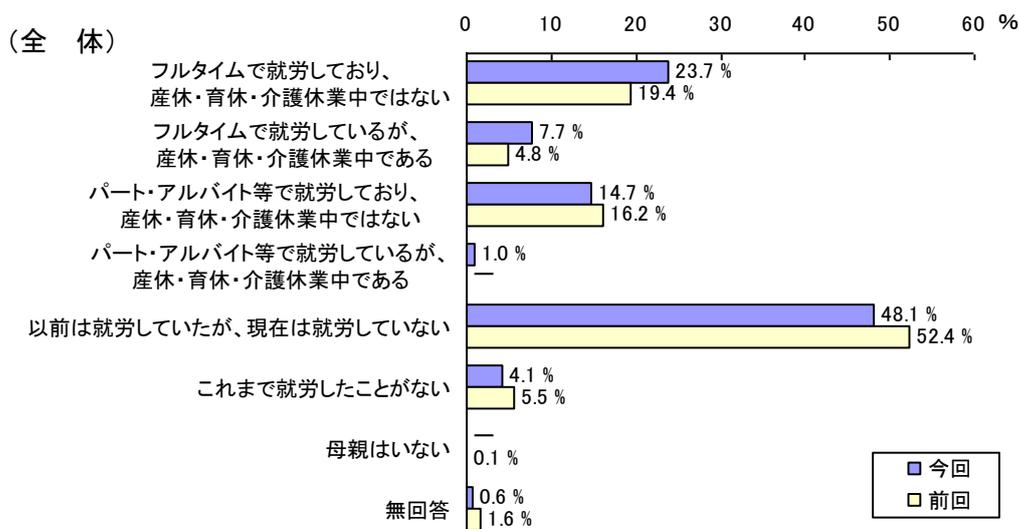
## （6）仕事と家庭生活の両立支援について

「仕事と家庭生活の両立」へのニーズは高まっており、育児休業制度などの法制度に対応した職場環境づくりが重要となっている。これにあわせ、市としては、保護者の就労状況に対応した教育・保育事業の充実に取り組んでいく必要がある。

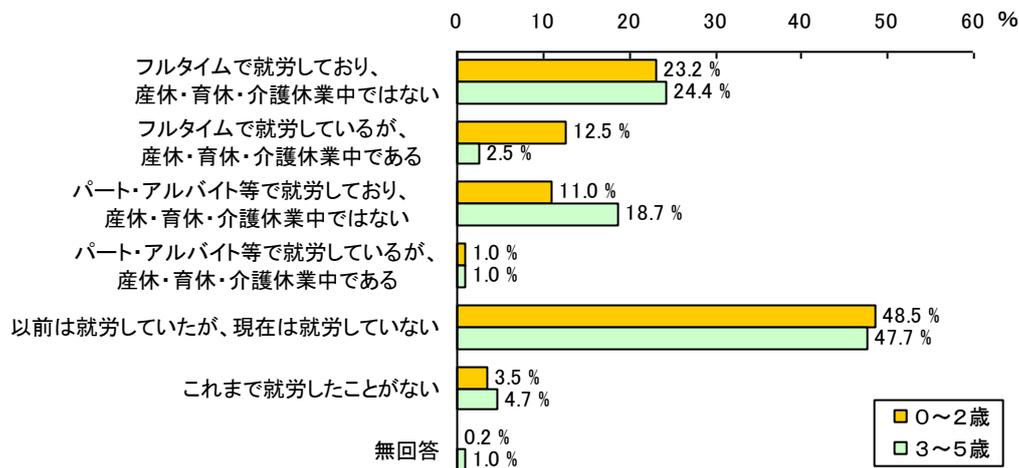
### ○ 母親の就労状況について（問26）

フルタイムで就労している母親が増加傾向にある。

#### 【問26 母親の就労状況】



#### （子どもの年齢区分別）



○ **仕事と家庭生活の両立について（問 18・問 19）※9頁参照**

問 18・問 19 の子育て支援に有効だと思う対策・支援について、「保育事業の充実」「地域における子育て支援の充実」の次にあげられたのが「仕事と家庭生活の両立」であり、そのニーズが高まっていることが分かる。

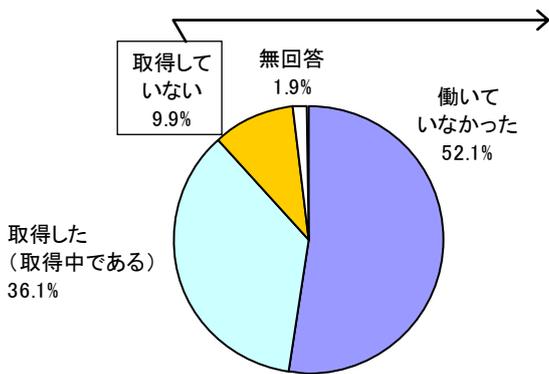
○ **育児休業の取得状況について（問 71）**

子どもが生まれた時に働いていた人のうち、育児休業を取得したのは母親が約 8 割、父親は約 1 割で男性の育児休業取得率は低い状況である。

また、育児休業を取得していない理由としては、母親は「子育てや家事に専念するため退職した」が最も多く 47.9%、父親は「仕事が忙しかった」38.3%が最も多くなっている。また、母親・父親ともに「育児休業を取りにくい雰囲気があった」という理由が上位に入っており、法制度の整備に対応した職場環境づくりが必要となっていることがわかる。

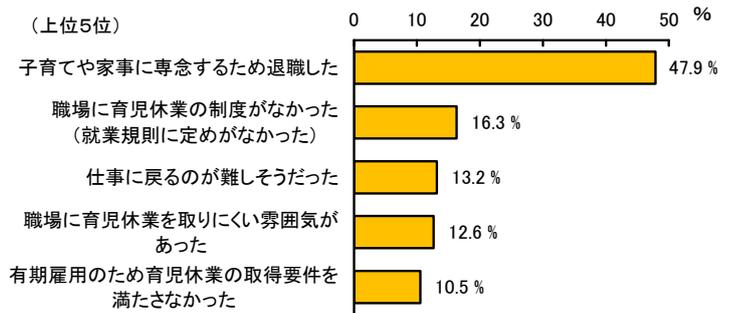
【問 71 育児休業の取得状況・取得しなかった理由】

～ 母親 ～

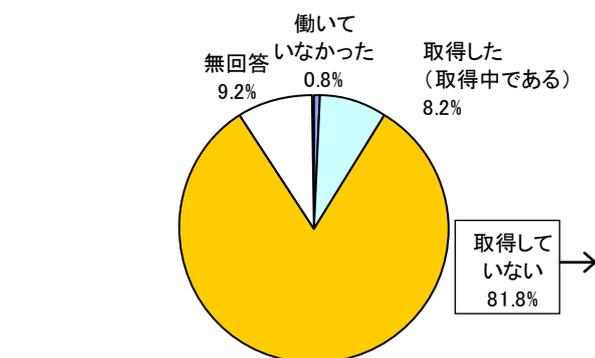


(取得していない理由)

(上位5位)

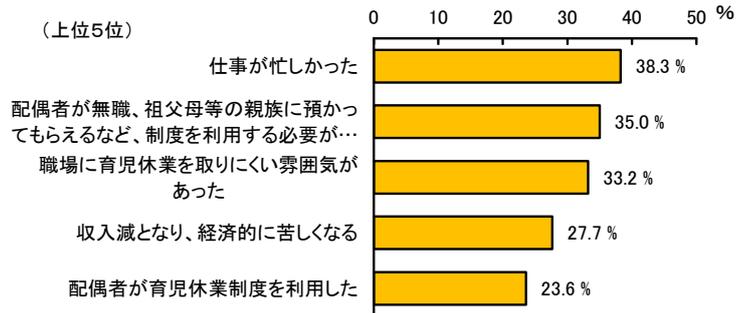


～ 父親 ～



(取得していない理由)

(上位5位)



○ **育児休業取得後に利用できる教育・保育事業の充実について（問 74・問 76）**

母親の育児休業からの復帰時期については、希望としては子どもが平均 1.4 歳になるまで取得したかったが、実際の復帰時期は子どもが 1.0 歳のときとなっており、希望よりも早く仕事に復帰している傾向がみられる。その理由として1番多いのが「希望する保育所に入るため」で 70.4%となっており、今後は、より保護者のニーズに対応できる教育・保育事業体制の整備を進めていく必要がある。

## (7) 子育て支援に関する情報の入手方法と事業の認知度

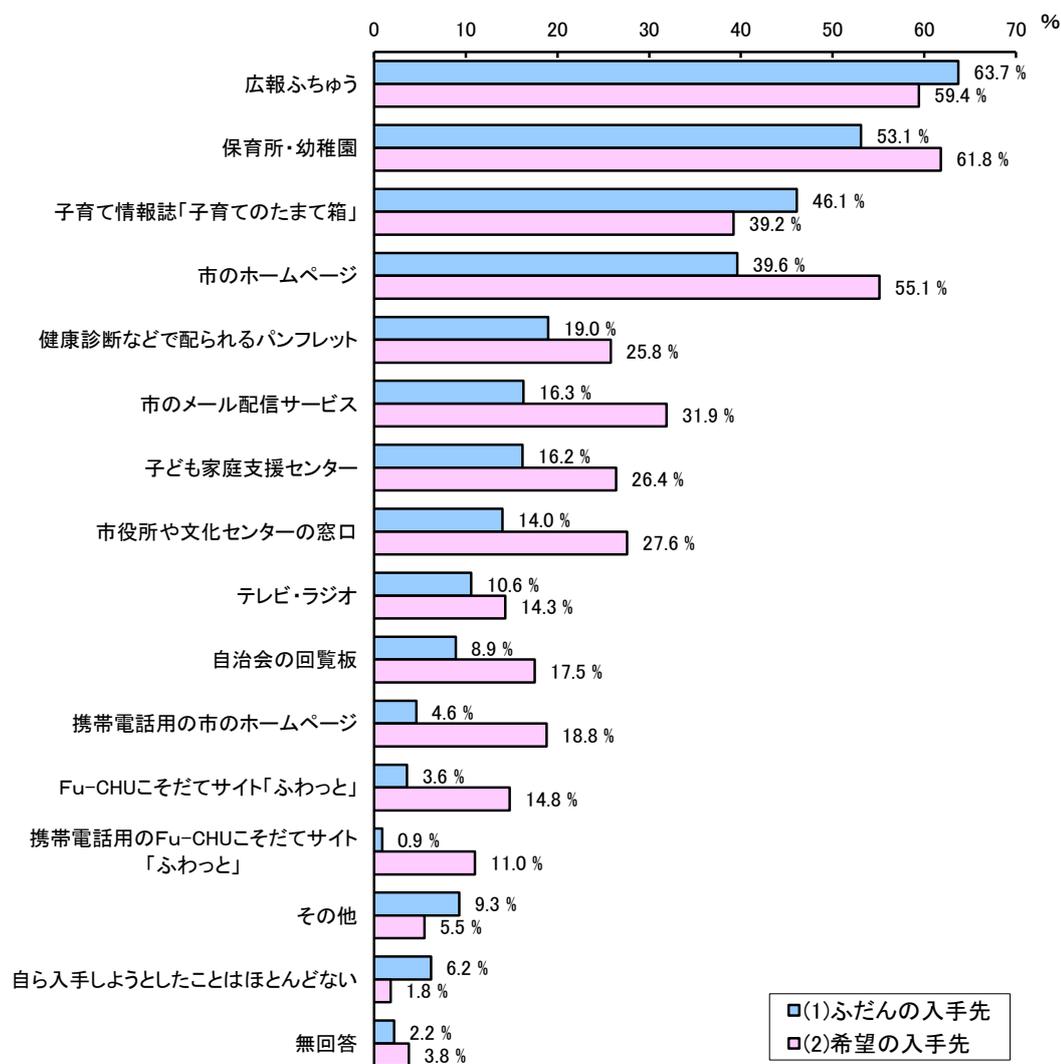
保育所や幼稚園など子育て家庭の身近な場所での情報提供と、ホームページやメール配信サービスなどのインターネット機能を活用した情報提供が求められている。

### ○ 子育て支援に関する情報の入手方法（問 86）

ふだんの入手先として多く利用されているのは、「広報ふちゅう」「保育所・幼稚園」「子育て情報誌「子育てのたまて箱」」である。希望の入手先の上位は、「保育所・幼稚園」「広報ふちゅう」「市のホームページ」となっており、特に「保育所・幼稚園」を希望の入手先としている割合が高く、地域の身近な場所で情報を入手したいという市民の意向が表れている。

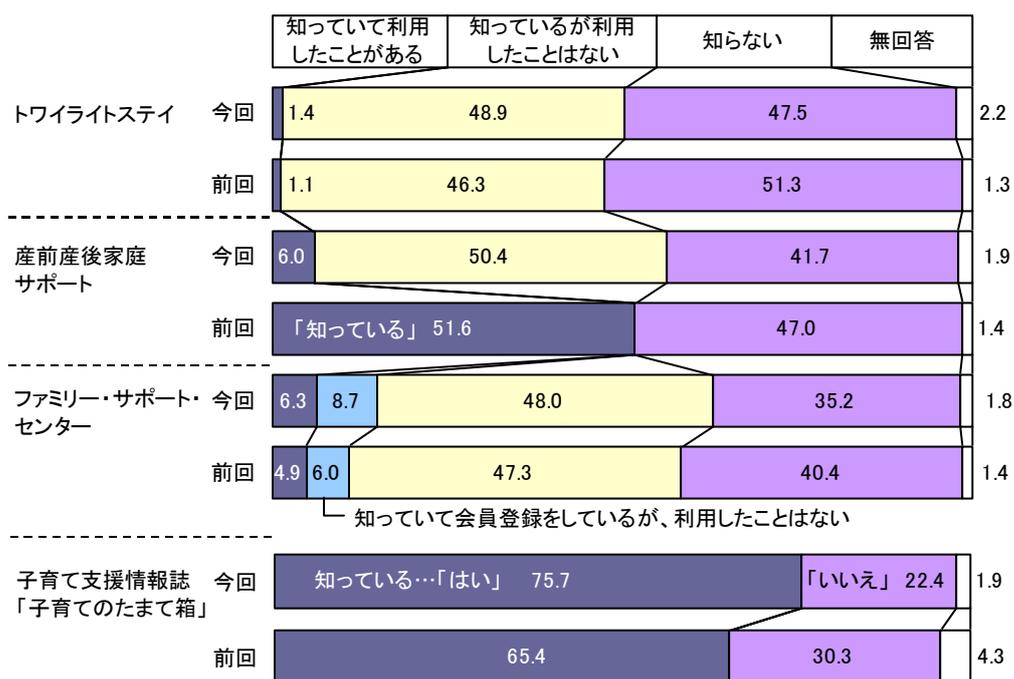
また、ふだんの入手先に対して希望する入手先の割合が大きく上回ったものは、「市のメール配信サービス」や「市のホームページ」などであり、インターネット機能を活用した情報提供が求められていることがわかる。

【問 86 子育て支援に関する情報の(1)ふだんの入手先と(2)希望の入手先の比較】



○ 各事業の認知度と利用状況（問 47・問 62・問 63・問 64）

各事業の認知度は前回調査と比較して高くなっている。



## 2 小学生調査結果の分析

### (1) 周囲の支援の状況・子育ての仲間づくりについて

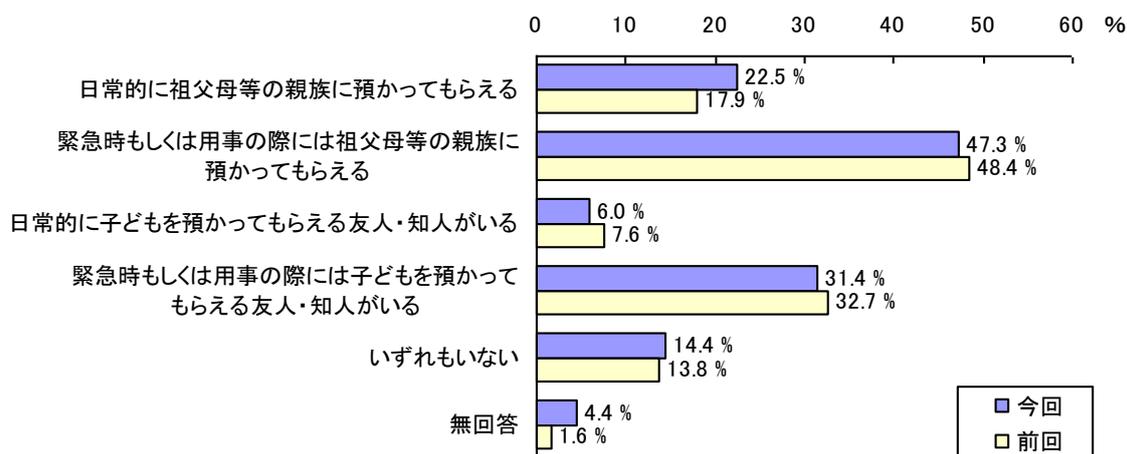
友人・知人や地域の人とのつながりが希薄化する傾向にあるものの、就学前児童と比較すると、子育て中の親子が地域にとけ込み、仲間同士が支え合いながら子育てをしている状況がうかがえる。

#### ○ 子どもを預かってもらえる親族・知人（問10）

子どもの預かりについては、子どもを預けられる友人・知人が少なくなったことにより、親族に頼ることが多くなっている。

一方で、就学前児童と比較すると、「緊急時もしくは幼児の際には子どもを預かってもらえる友人・知人がいる」は、就学前児童より小学生が15.6ポイント高い。

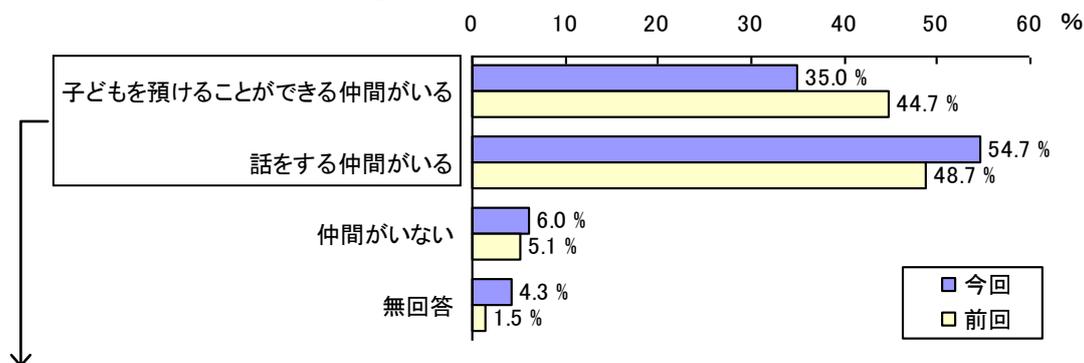
#### 【問10 子どもを預かってもらえる親族・知人がいるか】



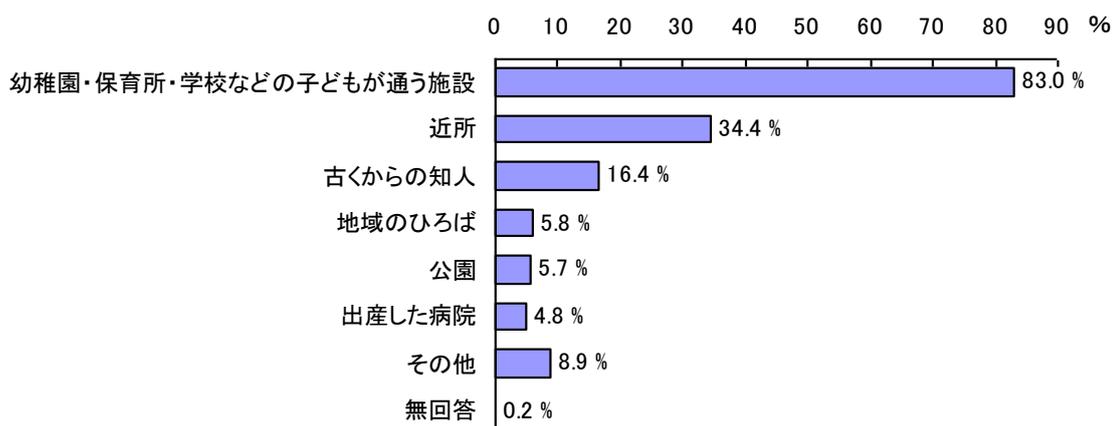
○ 子育ての仲間がいるか（問13）、どこで知り合ったか（問14）

子育ての仲間がいるかを聞いた設問では、就学前児童と同様に「子どもを預けることができる仲間がいる」は、今回調査では前回調査を10ポイント近く下回る。また、仲間とどこで知り合ったかについては、「幼稚園・保育所・学校などの子どもが通う施設」が83.0%と高くなっている。

【問13 子育ての仲間がいるか】



【問14 仲間とどこで知り合ったか】 ※問13で子育ての仲間がいると答えた人への設問

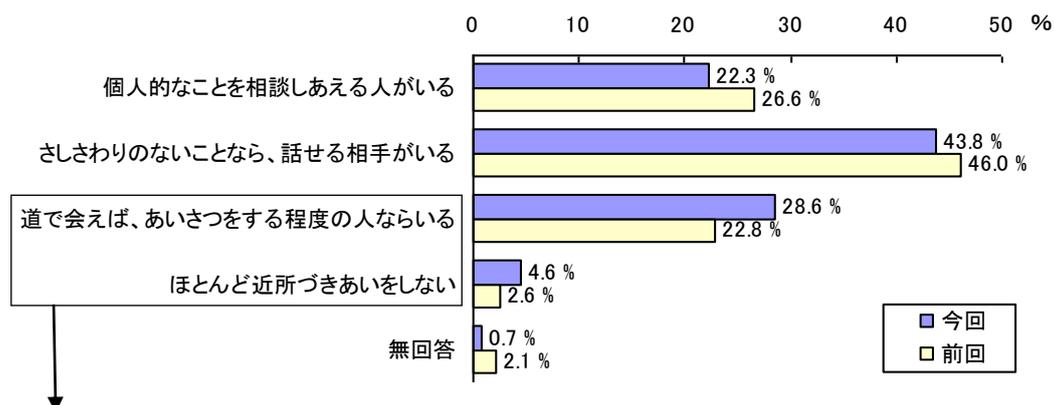


## ○ 近所づきあいについて（問 56、問 57）

近所づきあいについては、前回調査と比べると「個人的なことを相談しあえる人がいる」が約 4 ポイント下回るなど、付き合いの仕方が浅くなっている傾向がみられるが、就学前児童と比べると付き合いの仕方が深くなっている。

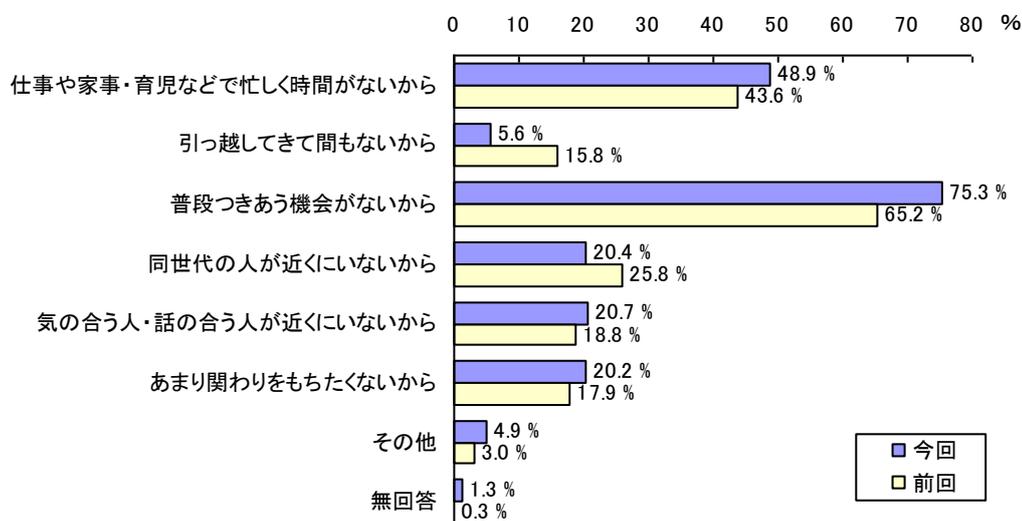
近所づきあいをしない理由としては、「普段つきあう機会がないから」が多く、前回調査と比べて約 10 ポイントの増加、次いで「仕事や家事・育児などで忙しく時間がないから」が多く、前回調査と比べて約 5 ポイントの増加である。

### 【問 56 どの程度の近所づきあいをしているか】



### 【問 57 近所づきあいをしない理由】

※問 56 で「あいさつをする程度の人ならいる」「ほとんど近所づきあいをしない」と回答した人への設問



## (2) 子育てで日ごろ悩んでいること

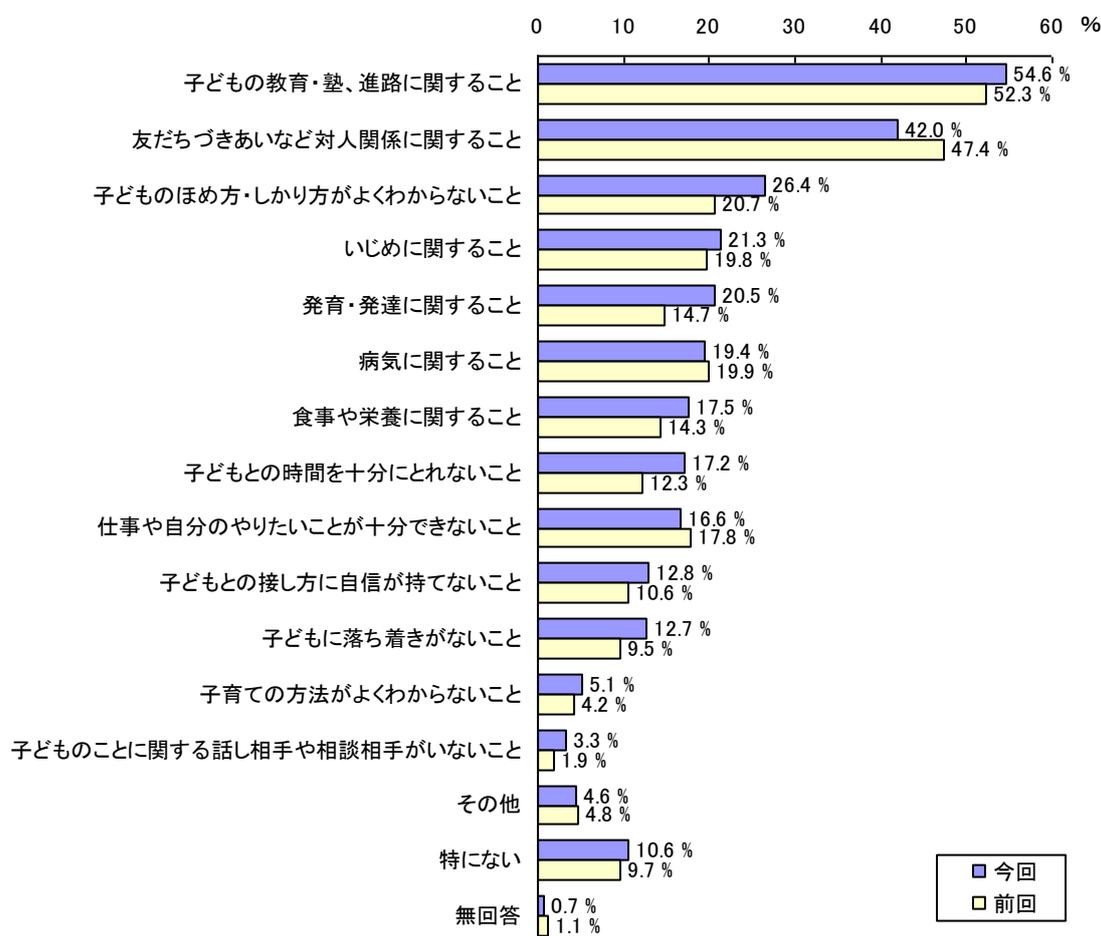
子育ての悩み・気になることについては、多岐にわたり増える傾向にあり、中でも「発育・発達に関すること」や「子どものほめ方、しかり方がよくわからない」の増加が目立つ。

### ○ 子育てで日ごろ悩んでいること・気になること（問20）

日ごろ悩んでいることについては、「子どもの教育・塾、進路に関すること」が一番多く、就学前児童との違いがみられる。そのほか、「友だちづきあいなど対人関係に関すること」「子どものほめ方・しかり方がよくわからなこと」「いじめに関すること」が上位となっている。

また、前回調査と比較すると、全般的に悩み・気になることは増える傾向にあり、特に「発育・発達に関すること」「子どものほめ方・しかり方がよくわからないこと」での増加が目立っている。

#### 【問20 子育てで日ごろ悩んでいること・気になること】



### (3) 放課後の子どもの過ごし方の希望について

新制度では、学童クラブの利用対象者が小学校6年生までに拡充されるため、受け入れ体制を確実に整えていく必要がある。放課後こども教室については、学童クラブとの連携を進めるなど、今後のあり方を検討していく必要がある。

#### ○ 平日の放課後の子どもの過ごし方の希望について（問38・問39・問41）

##### <学童クラブ>

低学年の子どもを持つ保護者の利用希望は、「低学年のうちには利用したい」という人が30.6%、「高学年になっても利用したい」という人は14.0%で、高学年の利用希望が低学年の利用希望の約半分となっている。また、1週あたりの利用希望日数は4.0～4.4日で、ほぼ毎日の利用を希望している。

なお、現在、高学年の子どもを持つ保護者の利用希望は11.2%と低くなっている。

##### <放課後こども教室>

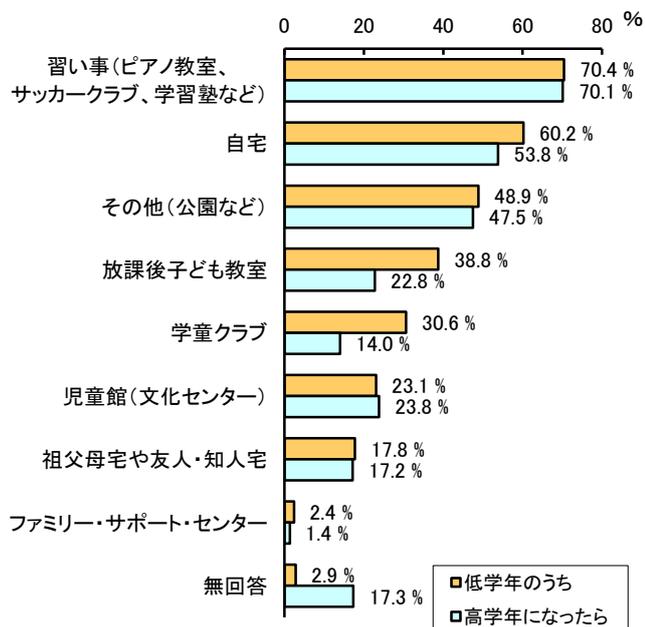
低学年の子どもを持つ保護者の利用希望は、「低学年のうちには利用したい」という人が38.8%、「高学年になっても利用したい」という人は22.8%となっているが、現時点で高学年の子どもを持つ保護者の利用希望は8.5%となっており、実際には、子どもの成長とともに利用希望が低くなる傾向がみられる。

##### <児童館（文化センター）>

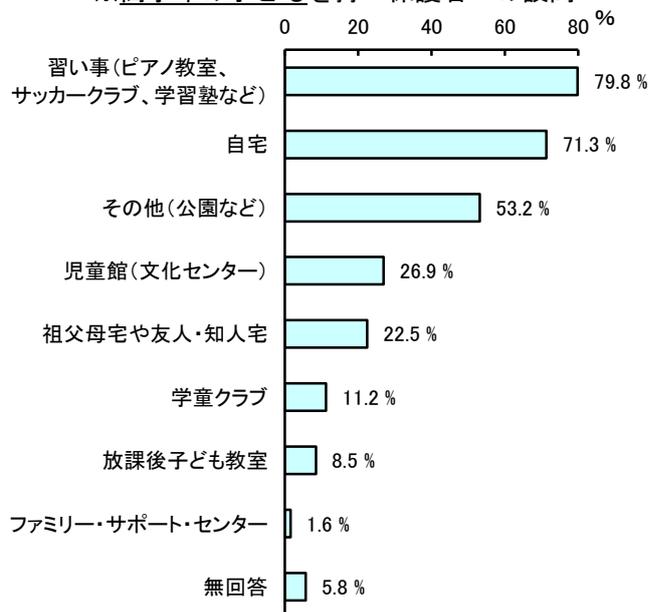
児童館（文化センター）の利用希望は、低学年よりも高学年が高くなっている。

また、問35（市の子育てに関する事業の認知度などを聞いた設問）では、児童館の認知度は93.8%、これまでの利用状況は78.6%、今後の利用希望は71.9%と高くなっている。

【問38・39 放課後の過ごし方の希望】  
※低学年の子どもを持つ保護者への設問



【問41 放課後の過ごし方の希望】  
※高学年の子どもを持つ保護者への設問



## ○ 学童クラブの平日以外の利用希望（問 40・問 42）

学童クラブの入会登録には保護者の就労等の要件が必要だが、平日に学童クラブの利用を希望した人の平日以外の利用希望は、土曜日が約 2～3 割、日曜日・祝日は約 1 割でそれほど高くない。一方で、夏休みなどの長期休暇期間中の利用を希望する人は約 7 割となっており、利用意向が高いことがわかる。

## （４）子育て支援に関する情報の入手方法と事業の認知度

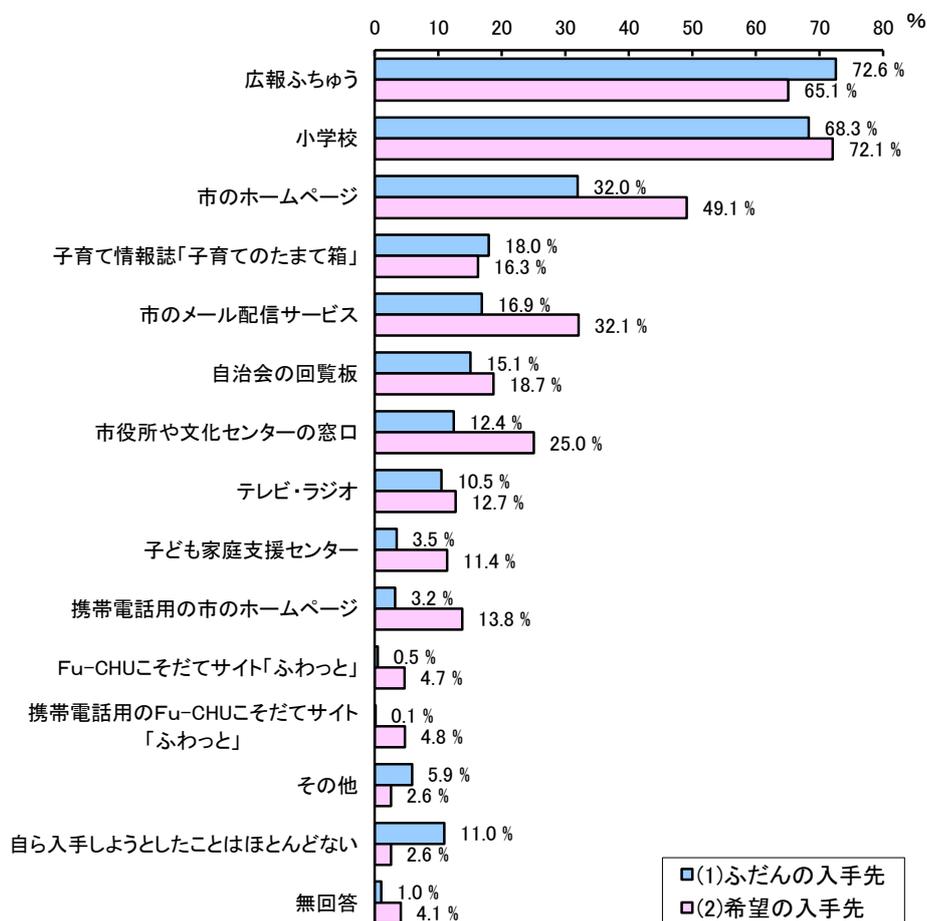
身近な情報入手の場所として、小学校での情報入手を希望する人が多い。また、就学前児童と同様に、ホームページやメール配信サービスなどのインターネット機能を活用した情報提供が求められている。

## ○ 子育て支援に関する情報の入手方法（問 58）

ふだんの入手先として多く利用されているのは、「広報ふちゅう」「小学校」「市ホームページ」で、希望の入手先の上位も同様にこの 3 つとなっており、特に「小学校」を希望の入手先としている割合が一番高くなっている。

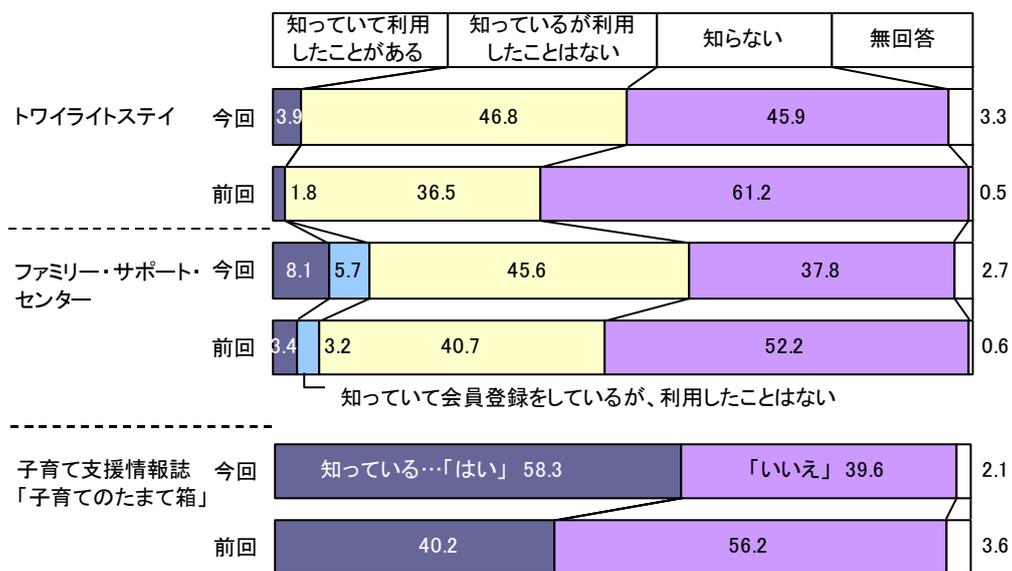
また、ふだんの入手先に対して希望する入手先の割合が大きく上回ったものは、「市のホームページ」「市のメール配信サービス」などであり、就学前児童と同様、インターネット機能を活用した情報提供が求められていることがわかる。

【問 58 子育て支援に関する情報の(1)ふだんの入手先と(2)希望の入手先の比較】



○ 各事業の認知度と利用状況（問 35・問 51・問 52）

各事業の認知度は前回調査と比較して高くなっている。



### 3 中学生・高校生世代調査結果の分析

#### (1) 休日の過ごし方の現状と希望

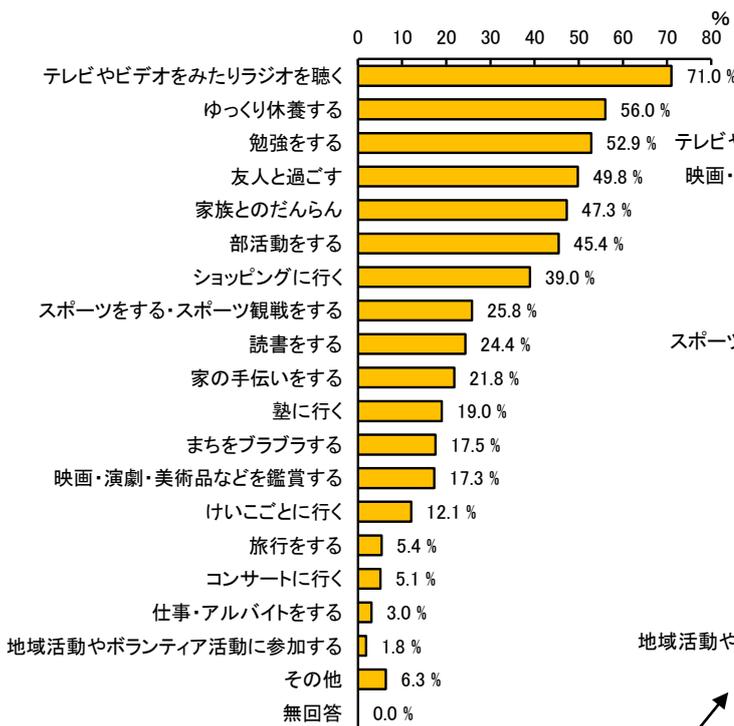
休日の過ごし方で現状、希望いずれも多いのが「テレビやビデオをみたりラジオを聴く」「ゆっくり休養する」「友人と過ごす」「ショッピングに行く」である。

#### ○ 休日の過ごし方の現状と希望（問14・問15・問16）

休日の過ごし方の現状で多いのが「テレビやビデオをみたりラジオを聴く」「ゆっくり休養する」「勉強をする」「友人と過ごす」「家族とのだんらん」「部活動をする」「ショッピングに行く」などである。

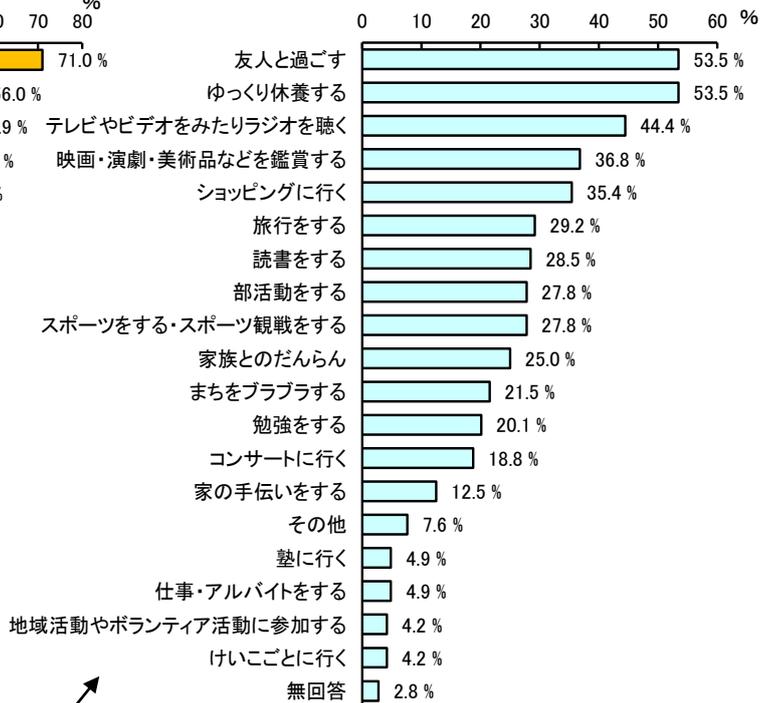
現状、自分が希望している休日の過ごし方をしているのは8割、希望と違うとしているのは2割である。希望と違うと答えた人に、どのように過ごしたいかを聞いたところ、「友人と過ごす」及び「ゆっくり休養する」「テレビやビデオをみたりラジオを聴く」「映画・演劇・芸術品などを鑑賞する」「ショッピングに行く」などを希望する割合が高くなっている。

【問14 休日の過ごし方の現状】

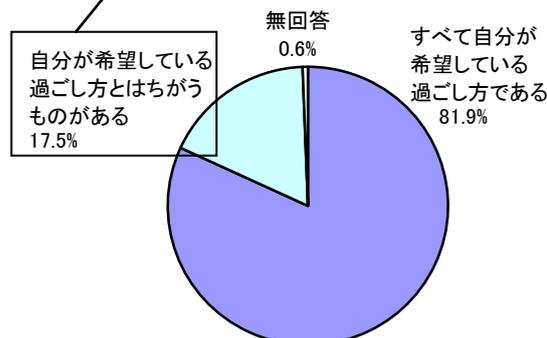


【問16 休日の過ごし方の希望】

※問15で「希望している過ごし方とちがうものがある」と回答した人への設問



【問15 休日の過ごし方は自分が希望している過ごし方か】



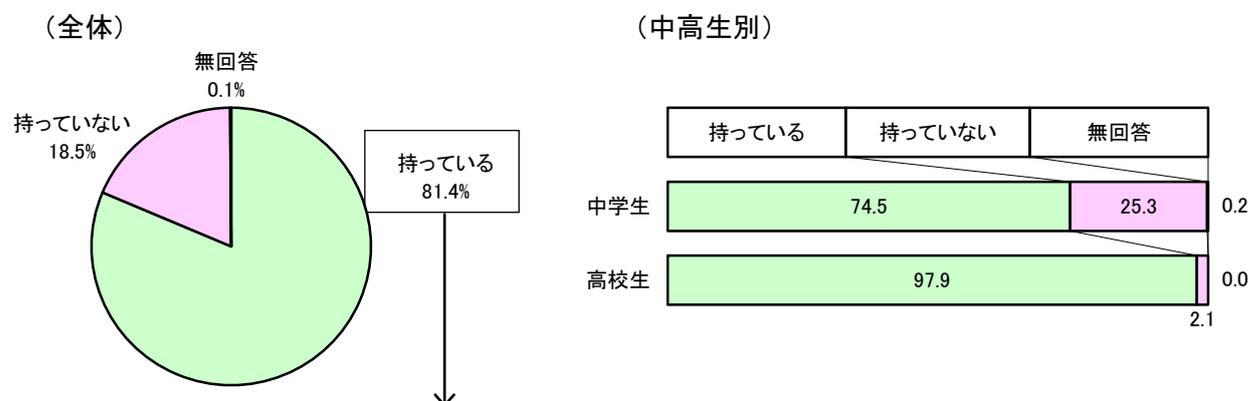
## (2) 携帯電話などの利用状況と安全対策について

中高生が携帯電話やパソコンでインターネットを利用している割合は高く、安全な利用方法について保護者や子ども本人に周知していく必要がある。

### ○ 携帯電話などの利用状況（問 19・問 20）

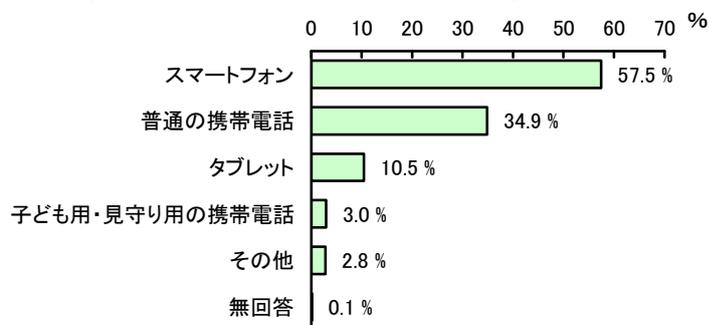
携帯電話を持っている人は、全体で8割を超えており、中高生別にみると、中学生では7割台、高校生は10割に近づいている。また、持っている携帯電話の種類としては、「スマートフォン」が6割近い。

#### 【問 19 携帯電話などを持っているか】



#### 【問 20 持っている携帯電話の種類】

※問 19 で持っていると回答した人への設問



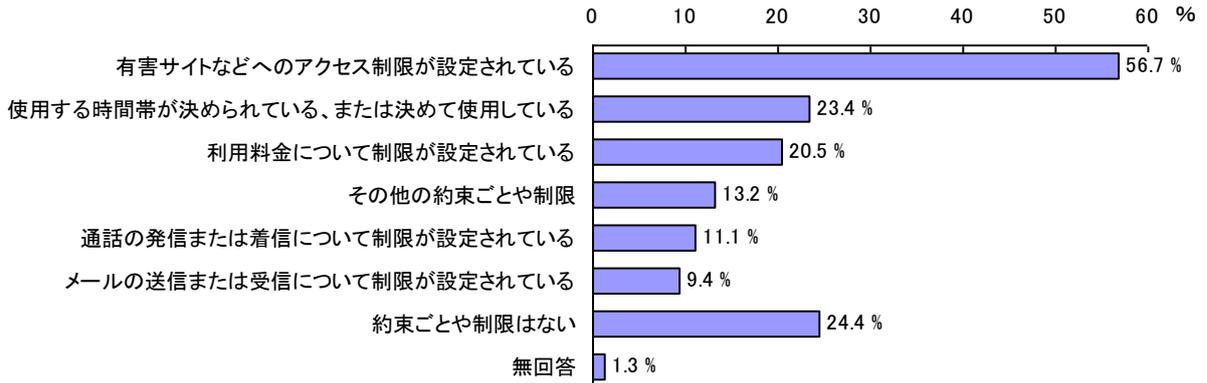
○ 携帯電話の使用制限の状況や問題点について（問 21・問 22）

携帯電話などを使用する際の制限の有無については、「有害サイトなどへのアクセスが制限されている」は5割を超えるが、「約束ごとや制限はない」人も4人に1人となっている。

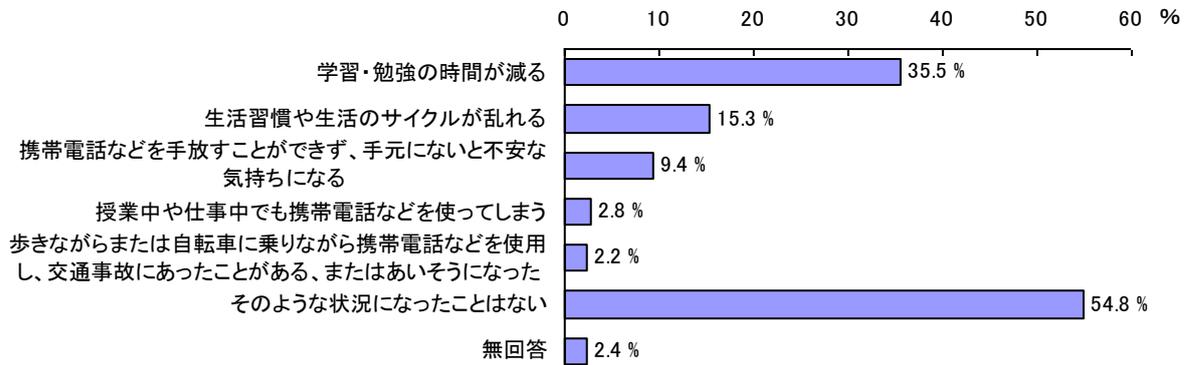
また、携帯電話の使用によって、「学習・勉強の時間が減る」が35.5%、次いで「生活習慣や生活のサイクルが乱れる」が15.3%などさまざまな利用上の問題が見られるが、一方で5割以上は「そうした状況になったことはない」と回答している。

子どもの年齢等に応じて、必要な制限などについて情報提供をしていく必要がある。

【問 21 携帯電話使用時の制限】



【問 22 携帯電話の使用により次のような状況になったことがあるか】



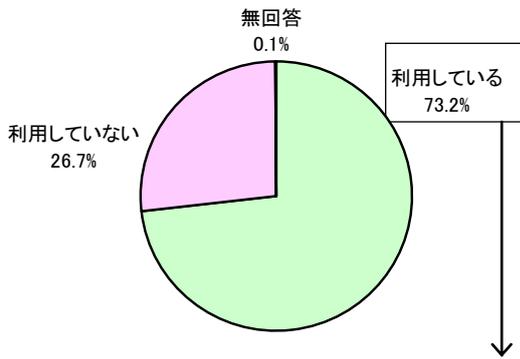
○ インターネットの利用状況について（問 23・問 24）

携帯電話やパソコンなどでインターネット（ライン・フェイスブック・ツイッターなどのSNSを含む）を利用している人は7割を超えている。

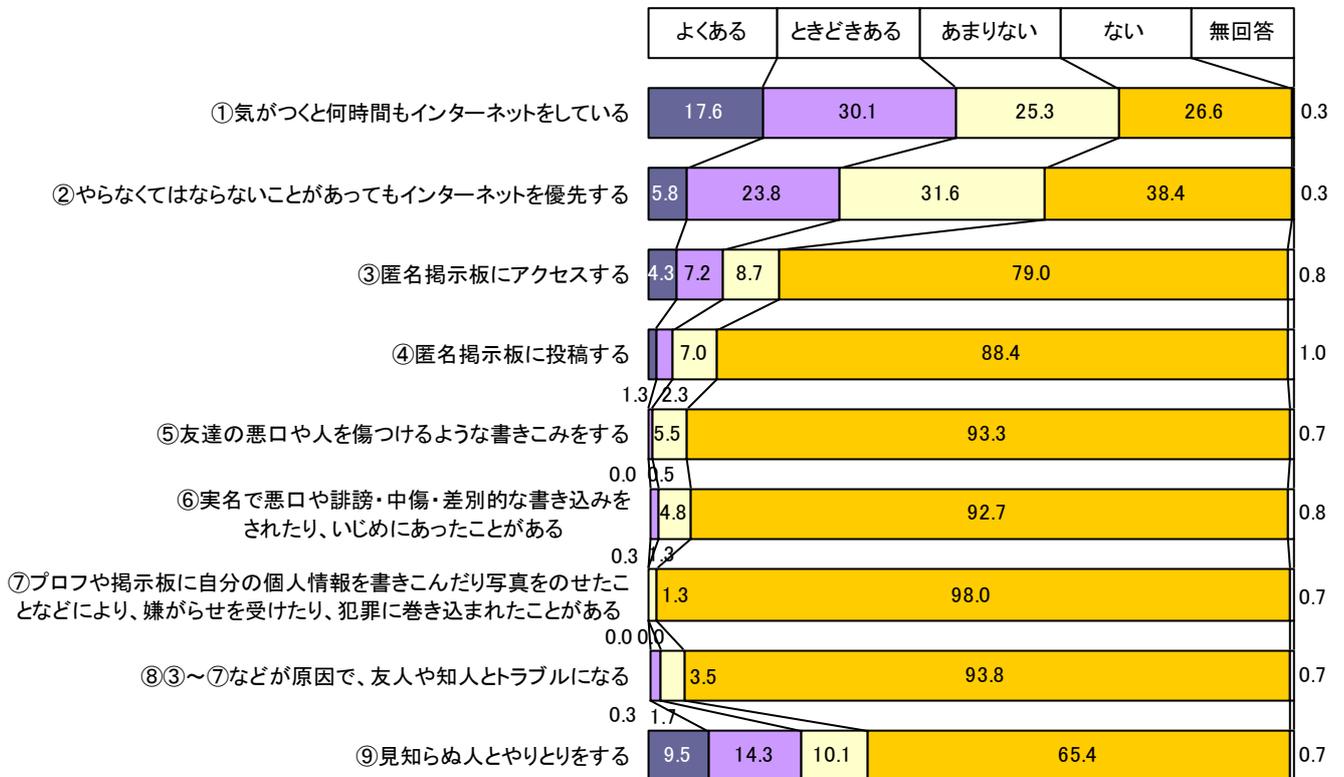
インターネットを利用する際の経験として「気がつくとも時間もインターネットをしている」「やらなくてはならないことがあってもインターネットを優先する」について「よくある」「ときどきある」と回答した割合が3～5割となっている。

その他の項目については「よくある」「ときどきある」と回答した割合は低いが、中にはトラブルになった経験を持つ子どももおり、誰にでも起こりうる身近な問題として、その危険性や安全対策について、保護者も含めて広く周知していく必要がある。

【問 23 インターネットの利用状況（パソコン・携帯電話など）】



【問 24 インターネット利用時の経験】 ※問 23 で「利用している」と回答した人への設問



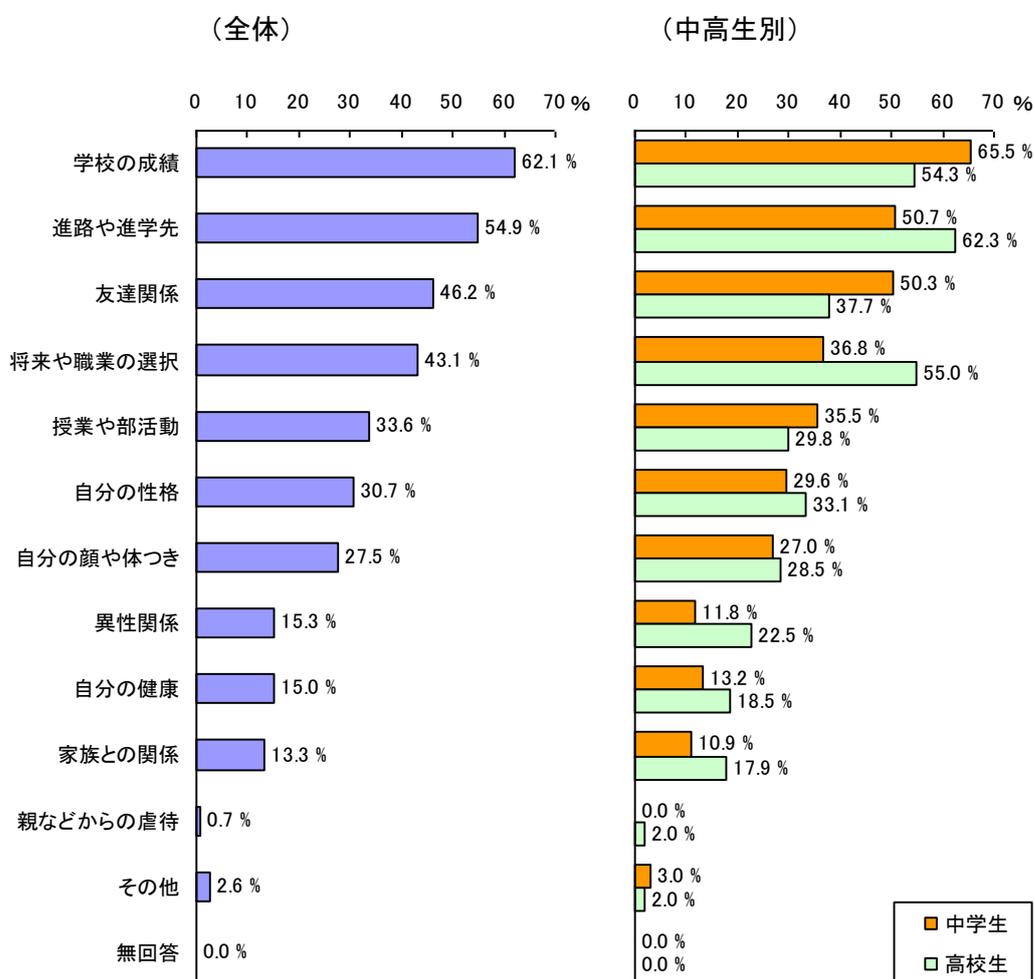
### (3) 悩んでいること、相談相手について

中高生世代の悩みは学校の成績や進路・進学先に関するものが多く、悩みの相談相手として「母親」と答えた割合が多い。相談できる人間関係を構築することができる環境づくりや、相談窓口の充実・周知を図ることが必要である。

#### ○ 中高生が悩んでいること（問31）

「悩みがある」または「過去に悩みがあった」のは6割弱となっており、その内容として多いのは、「学校の成績」「進路や進学先」などである。高校生は中学生に比べて「進路・進学先」「将来や職業の選択」の割合が高くなっている。

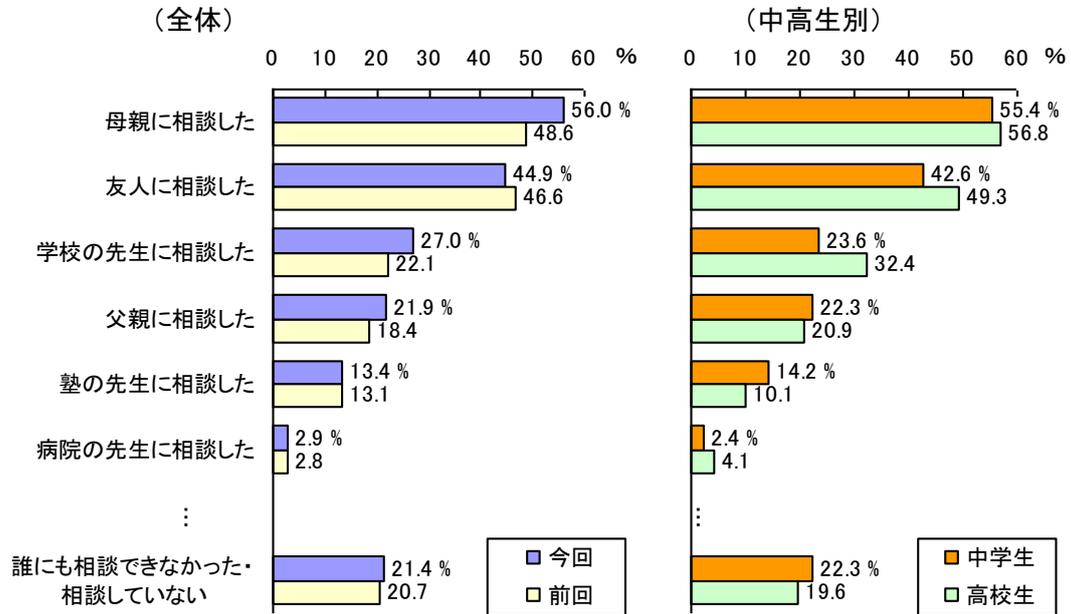
#### 【問31 どのような悩みがあるか／あったか】



○ 悩みの相談先について（問 32）

悩みの相談先としては「母親」56.0%、「友人」44.9%が多く、やや差があり「学校の先生」「父親」と続く。前回調査と比べ「母親」の増加が目立つ。中学生・高校生別でみると「母親」は同程度であるが、「友人」は高校生の方がやや多い。

【問 32 問 31 で回答したもののうち最も大きな悩みをについて誰に相談したか】



#### (4) 地域活動への参加意向について

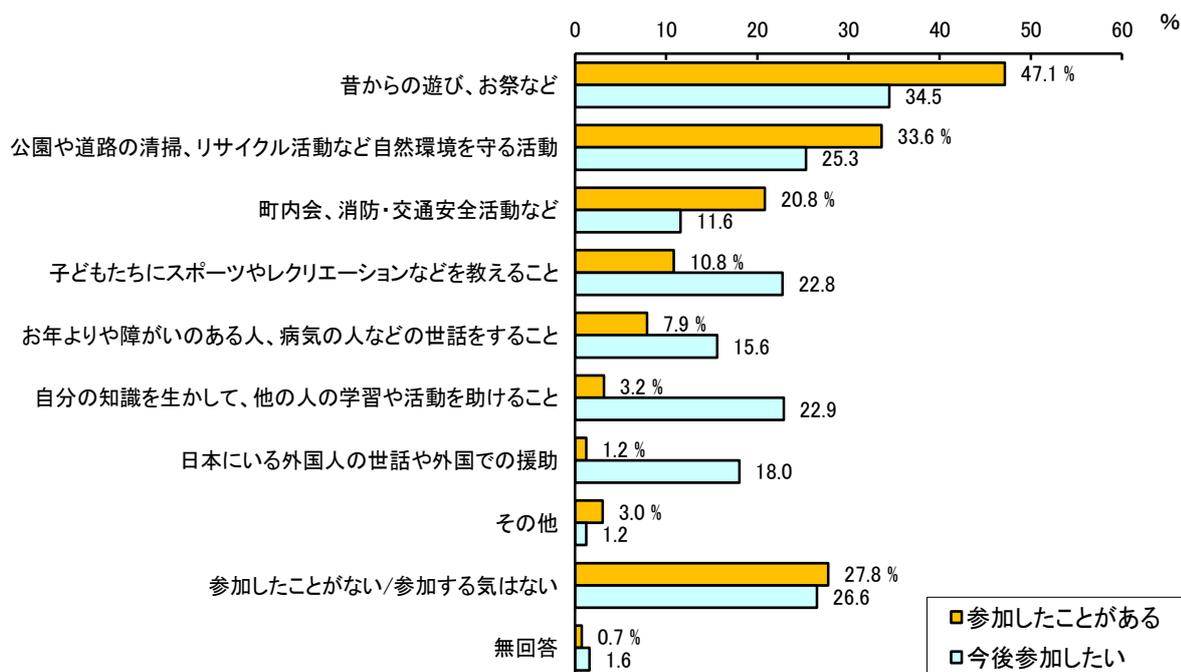
地域活動については、自分の知識などを活かして他の人を助けたり援助したりする社会貢献活動への関心が高くなっており、こうした意向を実現できる場を提供する取り組みが有効である。

##### ○ 地域活動への参加状況と今後の参加希望（問 38・問 39）

これまでに参加したことがあるものとしては「昔からの遊び、お祭りなど」「公園や道路の清掃、リサイクル活動など自然環境を守る活動」の割合が高くなっている。

今後の希望においてもこの2つが上位となっているが、そのほかに「子どもたちにスポーツ・レクリエーションなどを教えること」や「自分の知識を生かして、他の人の学習や活動を助けること」「日本にいる外国人の世話や外国での援助」「お年寄りや障がいのある人、病気の人などの世話をすること」について、現状よりも今後の参加希望が多くなっており、ボランティア活動などへの関心や意欲が高いことが理解できる。こうした意向を受けとめて活かすことのできる地域活動の場を提供することが、今後の青少年の健全育成にとって有効である。

【問 38・問 39 地域で参加したことがある活動・参加してみたい活動】



## (5) 府中市に実施してほしいこと

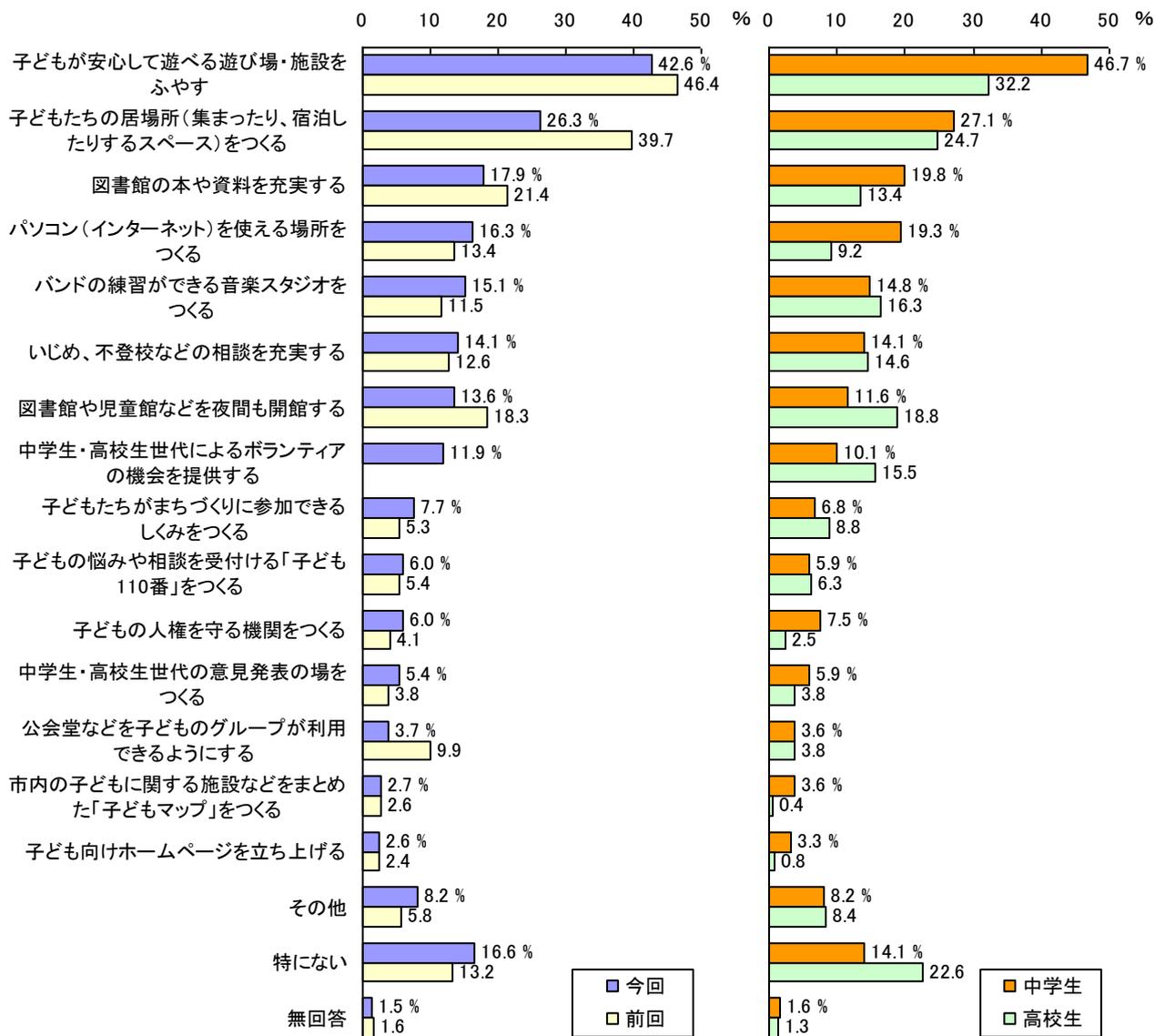
中高生が市に実施してほしいことの上位は、前回調査と変わらず「子どもが安心して遊べる遊び場・施設をふやす」「子どもたちの居場所をつくる」となっており、子どもたちが安心して過ごすことのできる居場所づくりが求められている。

### ○ 府中市に実施してほしいこと（問 45）

府中市に実施してほしいことは、中高生ともに「子どもが安心して遊べる遊び場・施設をふやす」が最も多く、次いで「子どもたちの居場所をつくる」となっており、子どもたちが安心して過ごすことのできる居場所づくりが求められていることがわかる。

中学生と高校生を比較すると、3位、4位は中学生が「図書館の本や資料を充実する」「パソコン（インターネット）を使える場所をつくる」であるが、高校生は「特にない」「図書館や児童館などを夜間も開館する」となっている。

#### 【問 45 府中市に実施してほしいこと】



## 4 ひとり親家庭調査結果の分析

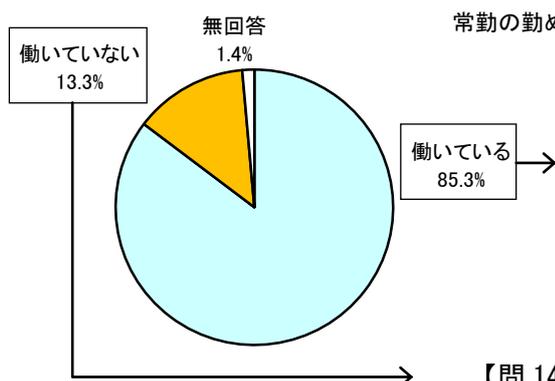
### (1) 保護者の就労の状況について

ひとり親となって新しく仕事に就く人や転職する人が多く、仕事のあっせんや技能習得のための経済的支援に対する要望が強い。関係機関と連携しながら、それぞれの家庭の状況に応じて、必要な情報提供や支援を行うことが重要である。

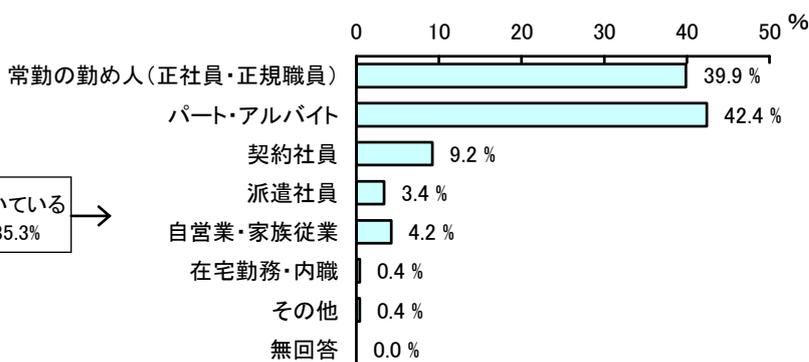
#### ○ 就労の有無や就労形態など（問 11・問 12・問 14）

「働いている」人の就労形態は、「常勤の勤め人」と「パート・アルバイト」が4割内外とほぼ同じである。また「働いていない」理由として、2人に1人が「自分が働ける健康状態ではない」をあげている。

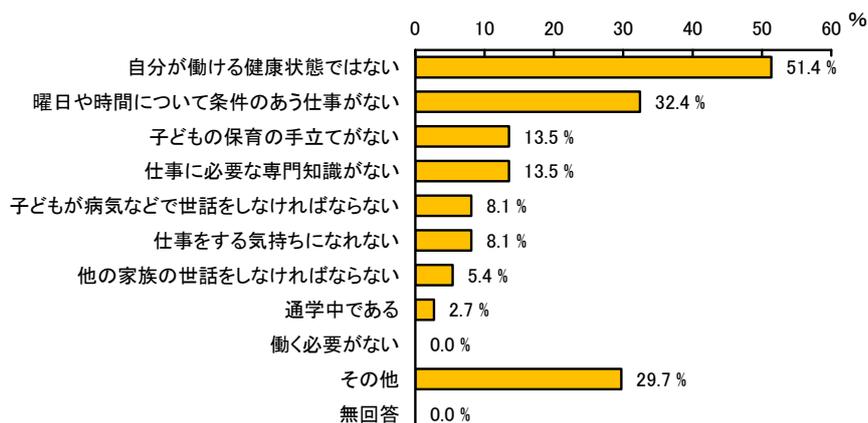
問 11 就労の有無



【問 12 就労形態】



【問 14 働いていない理由】

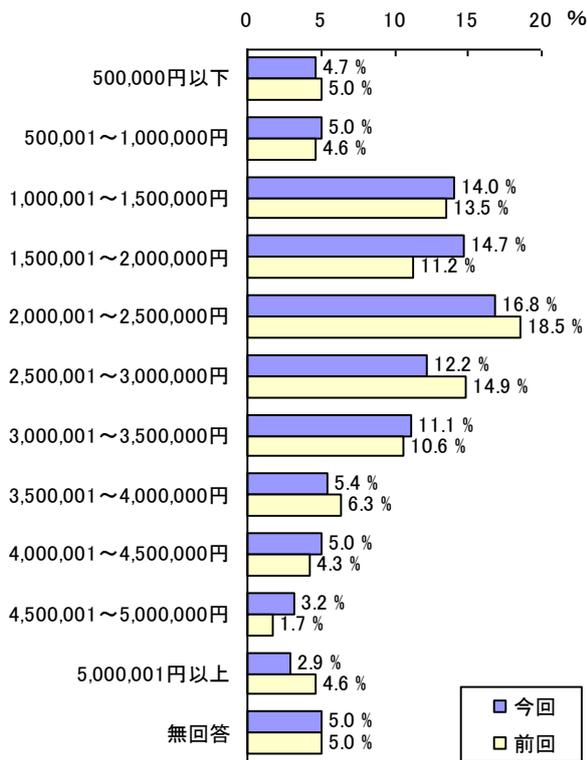


○ 年間の世帯総収入と就労収入について（問 22・問 23）

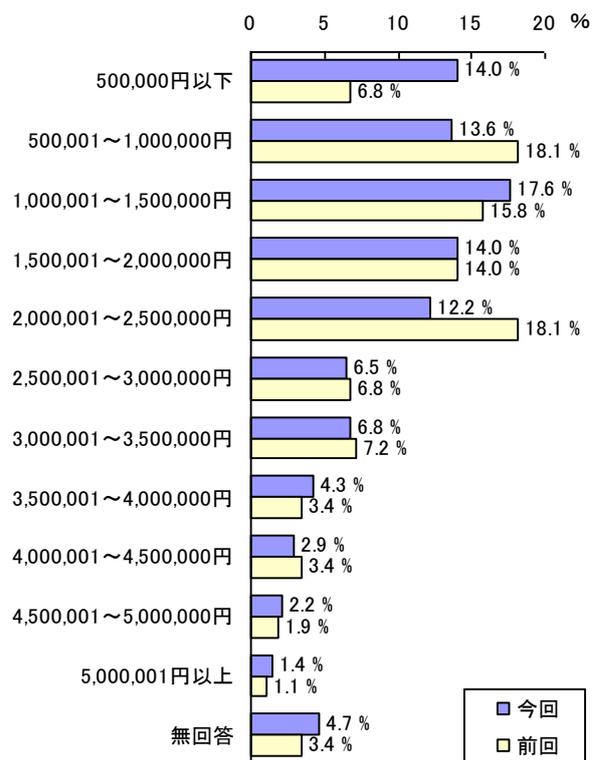
年間の世帯総収入については、今回調査・前回調査ともに「200万1円～250万円」が多くなっている。

年間の就労収入については、前回調査では「50万1円～100万円」と「200万1円～250万円」が多くなっていたが、今回調査では「100万1円～150万円」が一番多く17.6%、次いで「50万円以下」と「150万1円～200万円」が多く14.0%となっている。ひとり親家庭調査については調査の母数が少ないため、いちがいにはいえないが、就労収入が減少している傾向が見受けられる。

【問 22 年間の世帯総収入】



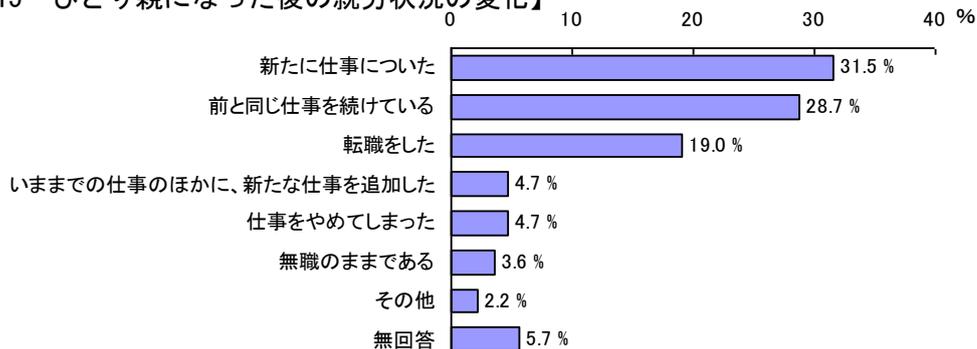
【問 23 年間の就労収入】



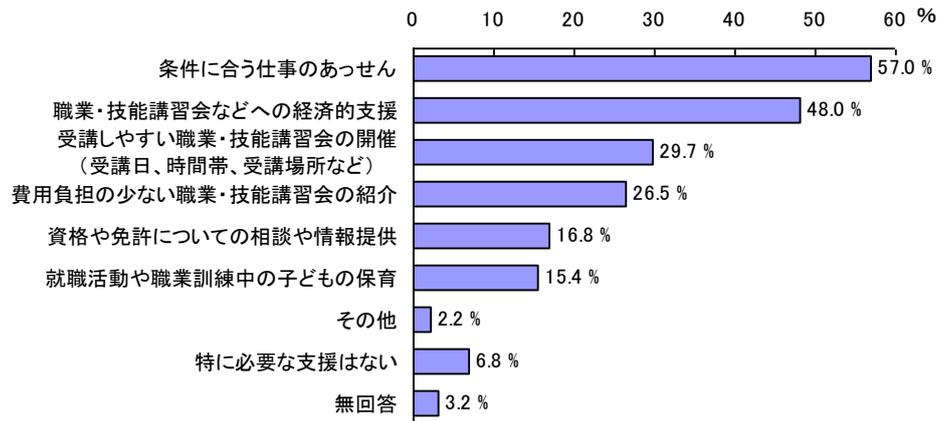
○ ひとり親になった後の就労状況の変化と必要な支援（問 15・問 20）

「新たに仕事についた」及び「転職をした」という人をあわせると5割を超えており、新しく仕事をはじめようとするときにあったらよいと思う支援については、「条件に合う仕事のあっせん」「職業・技能講習会などへの経済的支援」が多い。それぞれの家庭の状況に応じて、必要な情報提供や支援を行うことが必要とされている。

【問 15 ひとり親になった後の就労状況の変化】



【問 20 新しく仕事を始めようとする時にあったらよいと思う支援】

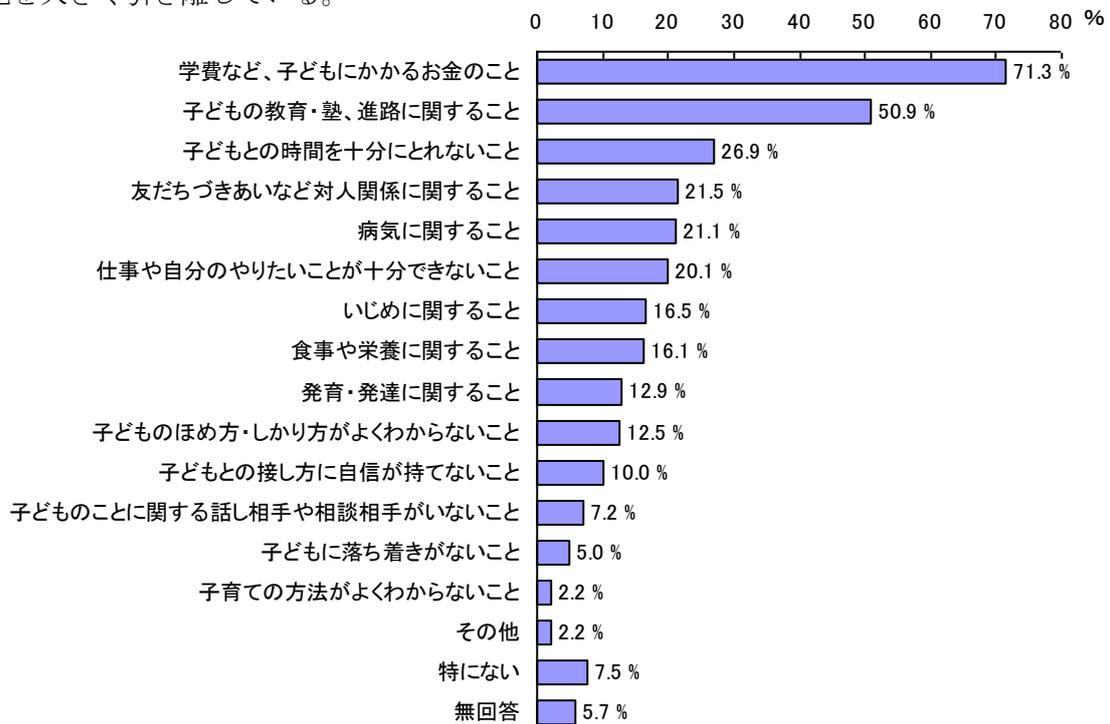


(2) 子育ての状況について

ひとり親家庭は、就学前や小学生と比較して、経済的にも精神的にも負担感が大きくなっている。ひとり親家庭の自立を支援するために、きめ細やかな情報提供と相談体制についての取り組みを進めていく必要がある。

○ 子育てで日ごろ悩んでいること・気になること (問 46)

子育てで日ごろ悩んでいることでは「学費など、子どもにかかるお金のこと」が 71.3%と他を大きく引き離している。

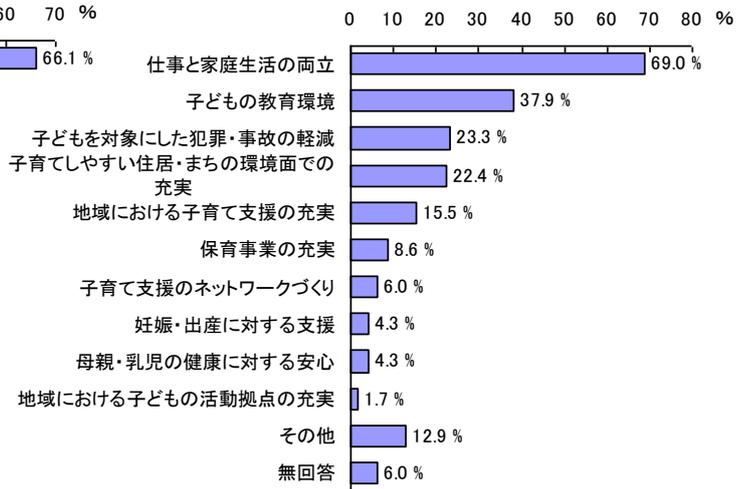
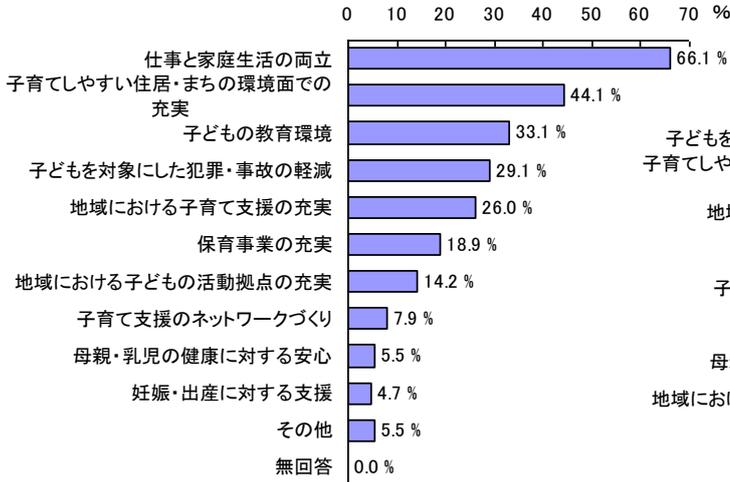


○ 子育てにおいて有効だと思う支援・対策について（問 30・問 31）

子育てにおいてどのような支援・対策が有効かについては、子育てを楽しんでいるか否かにかかわらず、「仕事と家庭生活の両立」が一番多くなっており、ひとり親家庭を取り巻く就労環境に課題があることがうかがえる。

【問 30 子育てに有効な支援はなにか】  
 ※問 29 で「楽しいと感じることのほうが多い」と回答した人への設問

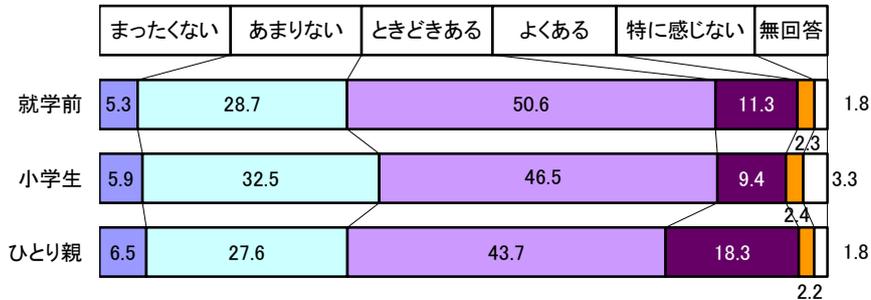
【問 31 子育てのつらさを解消するために必要なことはなにか】  
 ※問 29 で「楽しいと感じることと、つらいと感じることが同じくらい」「つらいと感じることの方が多い」と回答した人への設問



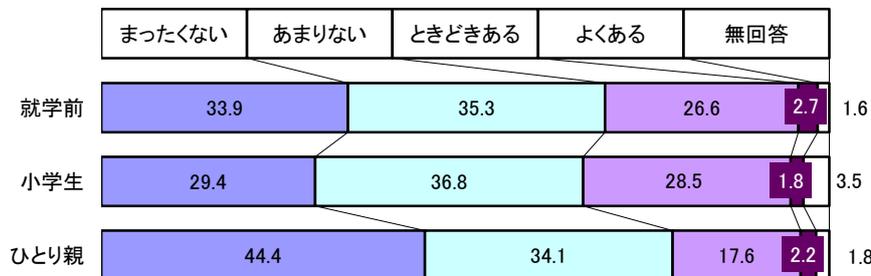
## 5 就学前児童調査・小学生調査・ひとり親家庭調査の比較分析

### ○ 日ごろ子育てをするなかでの経験など（就学前・問 20／小学生・問 18／ひとり親・問 32）

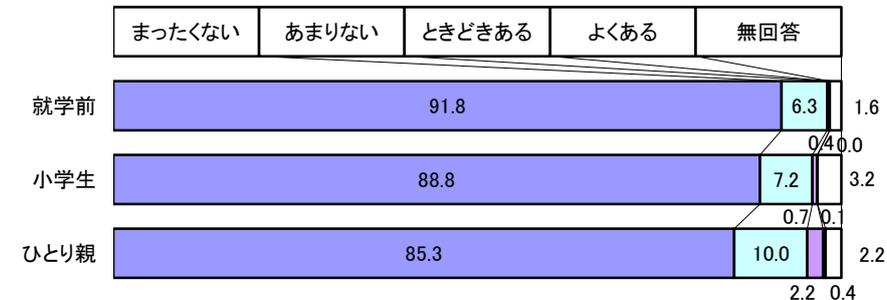
【子育てに自信がもてなくなることがあるか】



【イライラして子どもをたたいてしまうことがあるか】

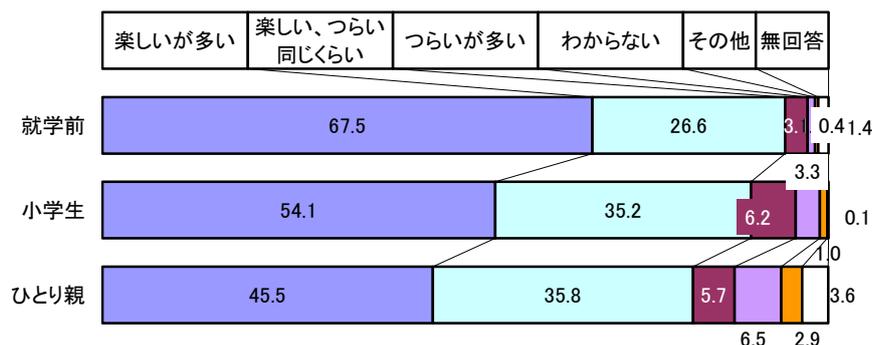


【子どもの面倒をみないことがあるか】



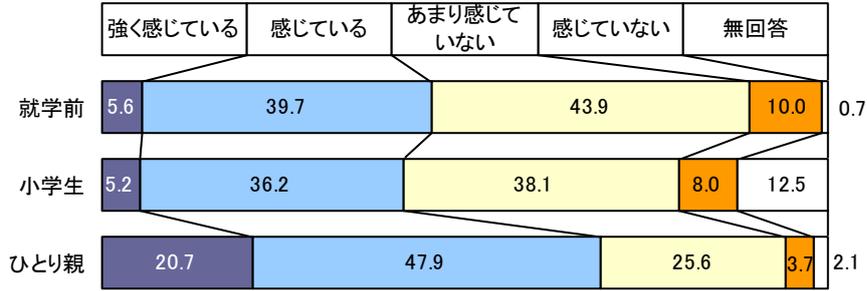
### ○ 子育てを楽しんでいるか（就学前・問 17／小学生・問 15／ひとり親・問 29）

「楽しいと感じることの方が多い」については調査対象による違いが大きく出ており、ひとり親家庭は就学前を約 20 ポイント下回っている。



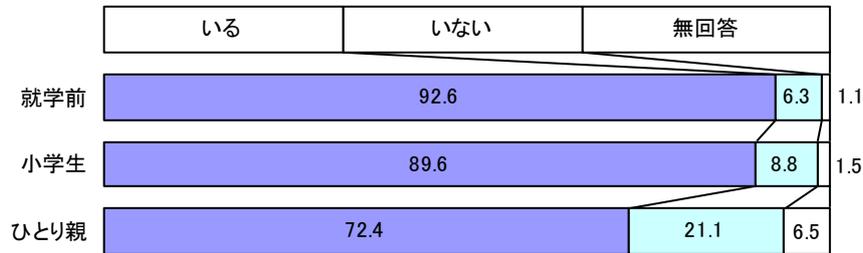
○ 子育てに不安を感じているか（就学前・問 22／小学生・問 21／ひとり親・問 47）

子育てに不安を感じている人は、就学前調査と小学生調査が約 4 割であるのに対し、ひとり親家庭では約 7 割となっており、その差が大きくなっている。



○ 子育てについて気軽に相談できる人がいるか（就学前・問 23／小学生・問 22／ひとり親・問 48）

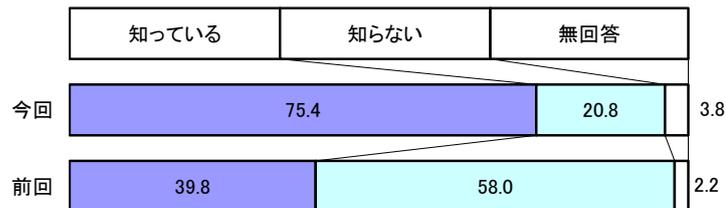
子育てについて気軽に相談できる人がいるかどうかについて、「いない」と答えた人が就学前調査は 6.3%、小学生調査は 8.3%であるのに対し、ひとり親家庭では 2 割以上と、大きく上回っている。



○ 児童虐待の相談先・通報先の認知度（就学前・問 89／小学生・問 61／ひとり親・問 56）

児童虐待防止に関する普及啓発は進んできている状況があり、いずれの調査においても、相談先・通報先の認知度は大きく増加している。引き続き、きめ細やかな取り組みを進めていく必要がある。

（就学前）



（小学生）



（ひとり親）

